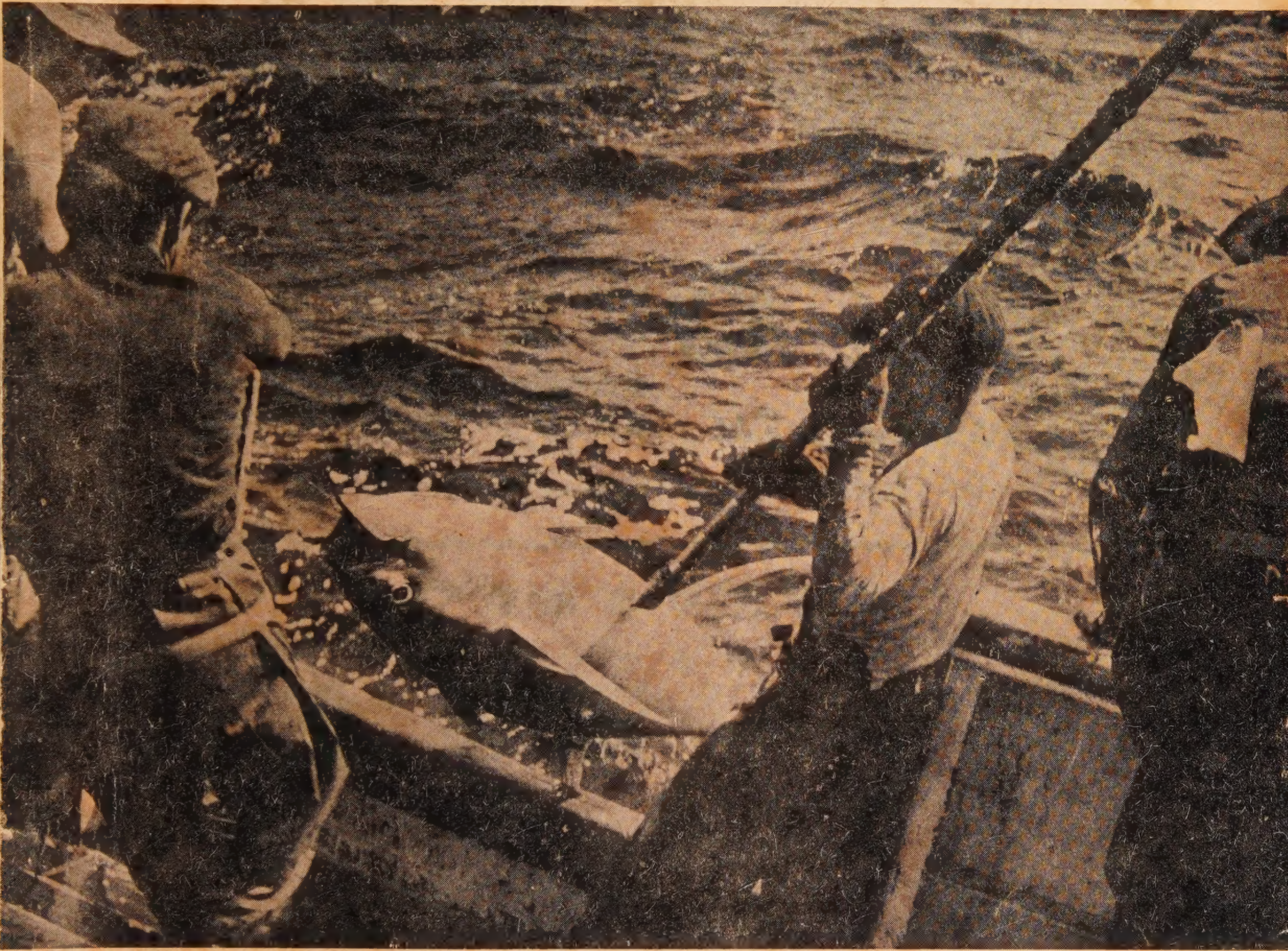
鮪漁業 第四十六号 昭和三十三年一月十日発行
（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

鮪漁業

TUNA FISHING

新 年 号

P. O. F. I. LIBRARY
APR 6 1959
FISH & WILDLIFE SERVICE



鮪 漁 業 研 究 会

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

No. 46 1958

謹賀新年

光電の方探

Kodenのロラン

株式会社 光電製作所
東京都品川区上大崎長者丸284の1
電話白金（44）代表1131～7番
Koden Electronics Co. Ltd.

◇新時代の冷凍機◇
（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設
設計・製作・施工

株式会社 東洋製作所

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2171—9番（49）2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話（36）代表 0974—5（36）2171—9（内線350—1）

——目　次——

年頭の辞……………………………………………神奈川県知事　内山岩太郎

年頭の所感……………………………………………大洋漁業株式会社 三崎営業所長　長崎勝平

年頭所感……………………………………………鮪漁業研究会長　菅野進

鮪漁船紹介　第一昭和丸　成和丸　第五孝勇丸　第十二全功丸

鮪漁場図　（昭和32年4月操業）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年4月現況）………………1

1. 調査の概要……………………………………………………………………1

2. 漁況の概要……………………………………………………………………1

3. 各海区の漁況…………………………………………………………………2

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年4月操業分）別表1……………………………9

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年4月操業分）別表2……………………………11

キハダマグロの鰭長の印度洋東西間の比較

神奈川県水産試験場　永井三夫・中込淳……………17

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年5月現況）………………19

1. 調査の概要……………………………………………………………………19

2. 漁況の概要……………………………………………………………………19

3. 各海区の漁況…………………………………………………………………20

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年5月操業分）別表1……………………………26

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年5月操業分）別表2……………………………27

太平洋赤道付近，140°—110°W付近のマグロ資源の一知見

神奈川県水産試験場　中込淳……………31

相模丸による大西洋鮪漁場開発事業第五次航海調査表　……………………34

デラウェア号（米国）鮪延縄試験に成功する……………………………………35

鮪類水揚価格表（三崎）昭和32年11月・12月……………………………………36

業界メモ……………………………………………………………………………37

鮪類標識放流について………………………………………………………8・38

表紙題字　寺本正市
表紙写真　三崎無線通信士協会写真部提供

年　頭　の　辞

神奈川県知事　内　山　岩　太　郎

昭和33年の新春を迎えるに当りまして鮪漁業研究会誌を通じて洋上遠く活躍されている鮪漁船の乗組員並びに鮪漁業関係の皆様方に年頭の御挨拶を御送りする機会を得ましたことは私の最も喜びと致すところで御座います.

顧りみまするに昨昭和32年は世界の文明の進歩の上に一大転期を画した年ということが出来ると思われます.

申すまでもなくソ連の人工衛星第一号，第二号の成功は我々人類にとりまして宇宙時代への第一歩を踏み出したわけで今後どのような形でどの位発展するものか予測もつかない程でありますがあくまでも之が人類の幸福と平和の為に役立つ様になることを希望する次第であります.

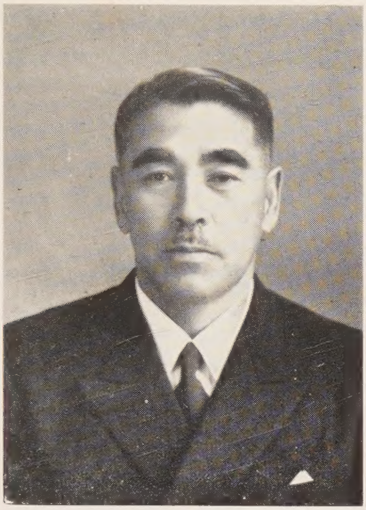
この様に急速に進展する世界情勢の中で日本の鮪漁業は皆様のたゆまざる努力によりまして文字通り世界の海に雄飛する迄に発展されたわけでありますが一面多くの困難な問題を控えて今後如何に進むべきかということは最も大きな問題だろうと思われます.

一例をとりましても原水爆実験による直接間接の被害，再燃した米国の輸入冷凍鮪に対する関税問題，近く国際会議が開かれようとしている世界各地の領海問題，漁場の荒廃を防ぐ資源維持の問題，海外基地漁業の開発及び世界的な鮪消費の増大と魚価安定の要請等何れも解決されなければならない重要な問題が山積しておりますが何れも国際的につながりのある問題で一朝一夕に解決し得ることではありません.

然しながらこの様な難問題を解決していくに当りましても，又今後日本の鮪漁業が着実な発展を続けていきますためにも基礎となる確実な統計資料が集積整理され分析されて始めて正しい判断も下され誤りのない方向に進むことが出来るものと考える次第であります.

この意味におきまして神奈川県水産試験場の職員各位が長年月にわたり黙々としてこの困難で

地味な資源の調査研究に取り組み又，鮪漁業研究会が殆んど独力でその成果の普及に努力して居られることに対しまして深甚なる敬意を表すると共にその努力が今後日本の鮪漁業の発展の前途に横たわる諸問題の解決に必ずや大きな役割を果たされ実を結ぶものと信ずるものであります．終りにのぞみ鮪漁業界の今後益々発展されんことを祈念して年頭の詞と致します．



年頭の所感

大洋漁業株式会社三崎営業所長
長　崎　勝　平

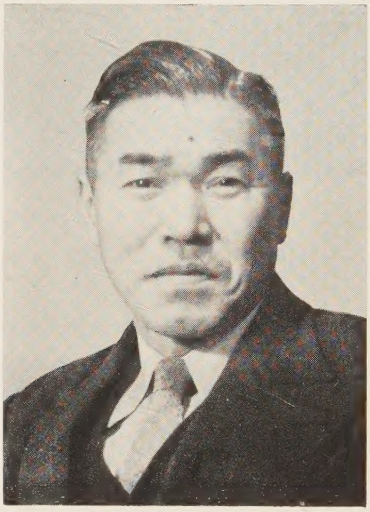
会員の皆様，御芽出度うございます．鮪研究会の撓まざる努力の結果，今日では鮪漁業者のある所，国の内外を問わず本誌を見ない所はないという程，其の真価を高からしめていることは誠に御同慶の至りであると共に，本誌の編纂に当られている方々に対して深甚の敬意を表します．

扨て昨年末から鮪漁業は曲り角に来たなどと言われていますが，一体本年度はどうなるのだろうかと誰も彼も案じているのが業界の現状です．仮りに曲り角へ来たというならば，その原因は二つの問題にあると思います．その一つは，伊太利基地漁業のこと，今一つは対米輸出鮪のことではないでしようか．昨年来急激に海外漁業として進出した鮪漁業にとっては，今年の伊太利基地漁業の対策は大きい問題です．それは一口に言って，現在でも伊太利市場に於ける鮪の販売は無統制で乱脈になり勝ちのことです．仮令官庁の適切なる監督と指導があったとしても，貿易業の唯売らん哉式の態度では，いや寧ろ貿易業者を責める前に，漁業者自体に於いて省みる点は多々ないでしようか．例えば価格の問題でも，頭切りの問題でも自分達の頸を自分達で絞めています．今少し漁業者自体が，漁業者の団体が，しっかりこの問題に取り組むなら，その解決もそう困難ではないと思います．

対米輸出の問題は，関税法案が米国の議会を通過するか否かにかかっていますが，若し仮りに通過したとしたなら，現在でも不振の対米輸出は更に拍車をかけて，より不振となるばかりでな

く，その原因が更に国内市場を圧迫して，一層の魚価安を来たし，漁業の経営に困難を加える結果になることでしよう．先日米国鮪漁船協会のチャップマンさんと三崎の漁業者とが会談いたしましたが，米国の漁業者も困っている様です．然し，その困り方と日本の漁業者との困る程度が違うということを力説いたし，了解を得るに努めました．この問題は上層部で種々接衝されることは勿論のことでしようが，又両国の漁業者が直接に会合し素直に意見を交換する機会を作ることは，こうした問題の解決にも役立ちましよう．即ち，この問題も吾々自身の問題として真剣に取り組む熱意が今の所では不足しているのではないかと思われます．こう考えて来ると，鮪漁業も本当に本年は曲り角へ来たのかも知れません．この曲り角を吉と出ている方へ曲る様に努めましよう．その為には，第一線に立って日夜鮪漁業に専念している会員の皆様が相共に理解し，協力して進むなら，その目的も易々として達せられると私は固く信じています．

会員の皆様，本年も健康で鮪漁業界の為頑張りましよう．



年　頭　所　感

鮪漁業研究会長　菅　野　進

昭和33年度の新春を迎え，謹んで各位に新年の御挨拶を申し上げます．

鮪漁業も戦後，飛躍に次ぐ飛躍を重ね驚異的発展を遂げて参りました事は，御同慶に耐えない処であります．

昨年度は唯一つの残された漁場，大西洋に迄進出し，世界の海に，日本鮪漁船の威容を，見ざる処なし，と言っても過言ではないのであります．一方翻って本業の足跡を顧ますと，必ずしも満足すべき事のみとは言い得ない状態で，今こそ斯業百年の大計を立てなければ，誰か将来，

此の儘の飛躍を肯定出来得るかと思慮するものであります.

漁船性能の高度化，漁撈技術の昴上，漁具の改善合理化の必然化は論を俟たないところですが，資源維持，魚価安定なくして永続的安定企業と言い得ないと信ずるものであります．ここに於て吾々としては，今年度の緊急課題として，鮪の資源愛護と，魚価安定対策に特に力を入れ，次の諸点の研究題目を提唱する次第であります.

1. 有用魚族（鮪類）の保護繁殖を目的とし，其の魚族の外敵（シャチ類等）の駆除撲滅を計る。
2. 鮪類の洄游系路を探求し，産卵場，及び産卵の保護を計る.
3. 魚肉，並びに非可食部の高度利用化.
4. 冷凍，冷蔵法の超高度化.
5. 国際市場の安定化と新市場の開拓.

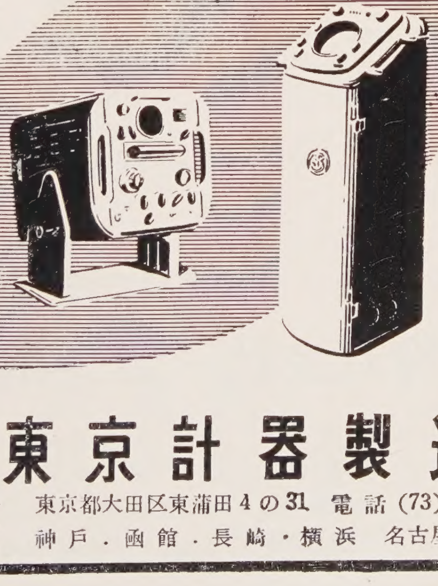
太陽と水と空気に依る人工食糧，クロレラの研究所が，先般，東京に開所されたこの新時代に，少なくとも，以上の項目を早急に実現される様各位と共に努力したいと念願する次第であります.

終りに臨み，会員各位の御繁栄を心より御祈り申し上げます.

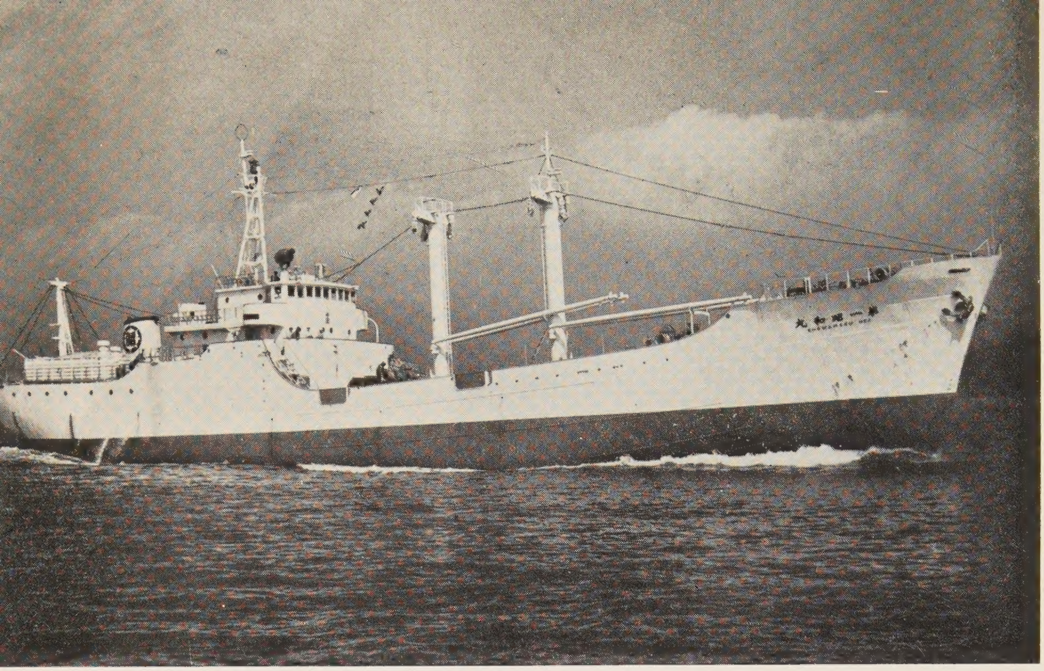
謹　賀　新　年

能率的な航海は
信頼出來る計器で

スペリー式
マリン・レーダー
マリン・ロラン



株式会社東京計器製造所
本社工場　東京都大田区東蒲田4の31　電話(73)2211～9
出張所及びサービスステーション　神戸．函館．長崎・横浜　名古屋．下関



第一　昭　和　丸

船　　主	昭和漁業株式会社
造船所	株式会社　金指造船所
主要寸法	長59.91m×幅11.00m×深5.30m
総屯数	1.077.57屯
魚艙容積	1.350m³
燃料油艙	465m³
速　　力	最大　13.311節
主　　機	デーゼル　1.600IP（赤阪鉄工）　1基
補　　機	デーゼル　250IP（　〃　）　2基
無　　線	500W　100W（七洋電機）　各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式（日新興業）90IP　3基
レーダー（沖電気），方探（太洋無線），音測兼魚探（産研）チャイロコンパス，G.C.P. 其の他	各1式
搭載艇	漁艇　2隻
竣　　工	昭和32年8月3日

謹賀

株式会社
光電製作所
東京都品川区上大崎長者丸二八四の一
電話白金(44)代表一一三一〜五

神奈川県三浦市三崎町花暮一三〇
電話三浦五四三・四三一番

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場	清水市三保4010—19	電話　清水2380〜2　3796〜7
塚間工場	清水市三保弁天492	電話　清水3870〜7
東京事務所	東京都港区芝田村町3ノ4	電話　芝(43)7296〜8
三崎出張所	三浦市三崎町西野34	電話（三浦）851

成和丸

新年

合資会社
三崎無線電機工業所

海上電機株式会社

本社 東京都千代田区神田錦町一の一九
電話(29)八一八一―四
研究所 東京都武蔵野市吉祥寺一五八七
電話武蔵野三一三一・六八一三
営業所 小樽・塩釜・東京・新潟・清水・長崎・
神戸・下関・境港・宇和島・
・鹿児島・根室・八戸・福岡

船主	成和漁業株式会社（和歌山市）	
造船所	株式会社　金指造船所	
主要寸法		長42.81m×幅7.50m×深3.80m
総屯数		388.14屯
魚艙容積		338m³
燃料油艙		191m³
速力		最大　11.806節
主機	デーゼル　650IP（赤阪鉄工）	1基
補機	デーゼル　100IP（　〃　）	2基
無線	250W　75W（日本無線）	各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式（日新興業）50IP	2基
レーダー（安立電波），方探（光電），音測兼魚探（産研），其の他		各1式
竣工		昭和32年9月15日

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　　社　大阪市北区中之島3の3　（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736―7（直通）
1334.2351.9531
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水　3507
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34　金指造船所三崎出張所内TEL.三浦851

施工船名
第1昭和丸
成和丸
第5孝勇丸
第12全功丸
第18海王丸
第15丸高丸
（其の他約五百隻）

第五　孝　勇　丸

船　主	孝勇漁業生産組合（三浦市）	
造船所	株式会社　臼杵鉄工所	
主要寸法		長36.31m×幅6.80m×深3.40m
総屯数		235.04屯
魚艙容積		35.000貫
燃料油艙		158m³
速　力	最大	13節
主　機	デーゼル　550HP（臼杵鉄工）	1基
補　機	デーゼル　100HP（久保田）	1基
無　線	250W　100W（七洋電機）	各1基
冷凍機	アンモニヤ直膨式（日新興業）5′×5′　30HP	2基
レーダー	魚探，其の他	各1式
竣　工		昭和32年10月15日

謹　賀

東京都台東区浅草橋二の三
電話浅草(84)代表八、二六一～八

強くて安くて腐らない
○延縄に絶対経験と
信用のあるメーカー

クレモナ
テビロン

国産製麻株式会社

本社　東京都中央区京橋三の四
電話東京(28)六六〇五～六

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社　三　保　造　船　所

本　社　静岡県清水市三保3797　電話清水(2)代表2201番
東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話　千代田（27）5522. 6775. 9761番

第十二　全功丸

船主	奥津政五郎（三浦市）
造船所	株式会社　金指造船所
主要寸法	長54.24m×幅9.00m×深4.60m
総屯数	702.76屯
魚艙容積	725m³
燃料油艙	338m³
速力	最大　13.029節
主機	デーゼル　1200HP過給機付（赤阪鉄工）　1基
補機	デーゼル　200HP（〃）　2基
無線	500W　100W（三崎電機）　各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式（日新興業）75HP　3基
レーダー（東京計器），ローラン（東京計器），方探（光電），音測兼魚探（産研），チャイロ，G.C.P.　其の他	各1式
搭載艇	漁艇　1隻
竣工	昭和32年6月22日

新　年

綿鮪延縄・綿撚糸製造販売
倉敷レイヨンK.K.クレモナ延縄指定工場

山田撚糸株式会社

本社工場　八尾市大字亀井
電話（東住吉）二、一一三　五五六
東京営業所　東京都品川区西戸越二の六七一
電話（荏原）六五五三

クレモナ延縄

東京製綱株式会社

製氷・冷蔵・凍結装置
製作・設計・工事請負

株式会社　**中須製作所**

本社　東京都丸ノ内三菱仲14号館3号
電話（28）8730～5番
工場　大田区原町177番地
電話（73）3295・3922・3923番

謹　賀　新　年

海図誌の御買上は……

日本郵船株式会社海図販売所

三崎出張所へ!!

代行者　宇津木航海計器製作所

日本及び米国水路部図誌　海事図書販売

航海計器の御相談は……

有限会社　宇津木航海計器製作所

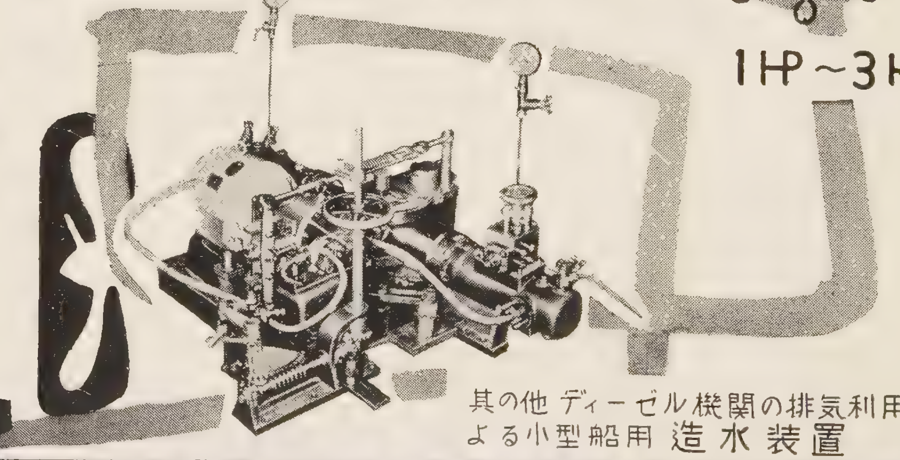
三崎出張所へ!!

三浦市三崎町花暮一八一番地
三崎港遠洋漁船船員消費生活協同組合内
電話　三浦八七五番
営業所　技術部　横浜・工場　本牧

六分儀・クロノメーター・甲板時計
双眼鏡・バロメーター・インチケイター・船舶時計・コムパス・各種航海用測器類　販売・修理

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

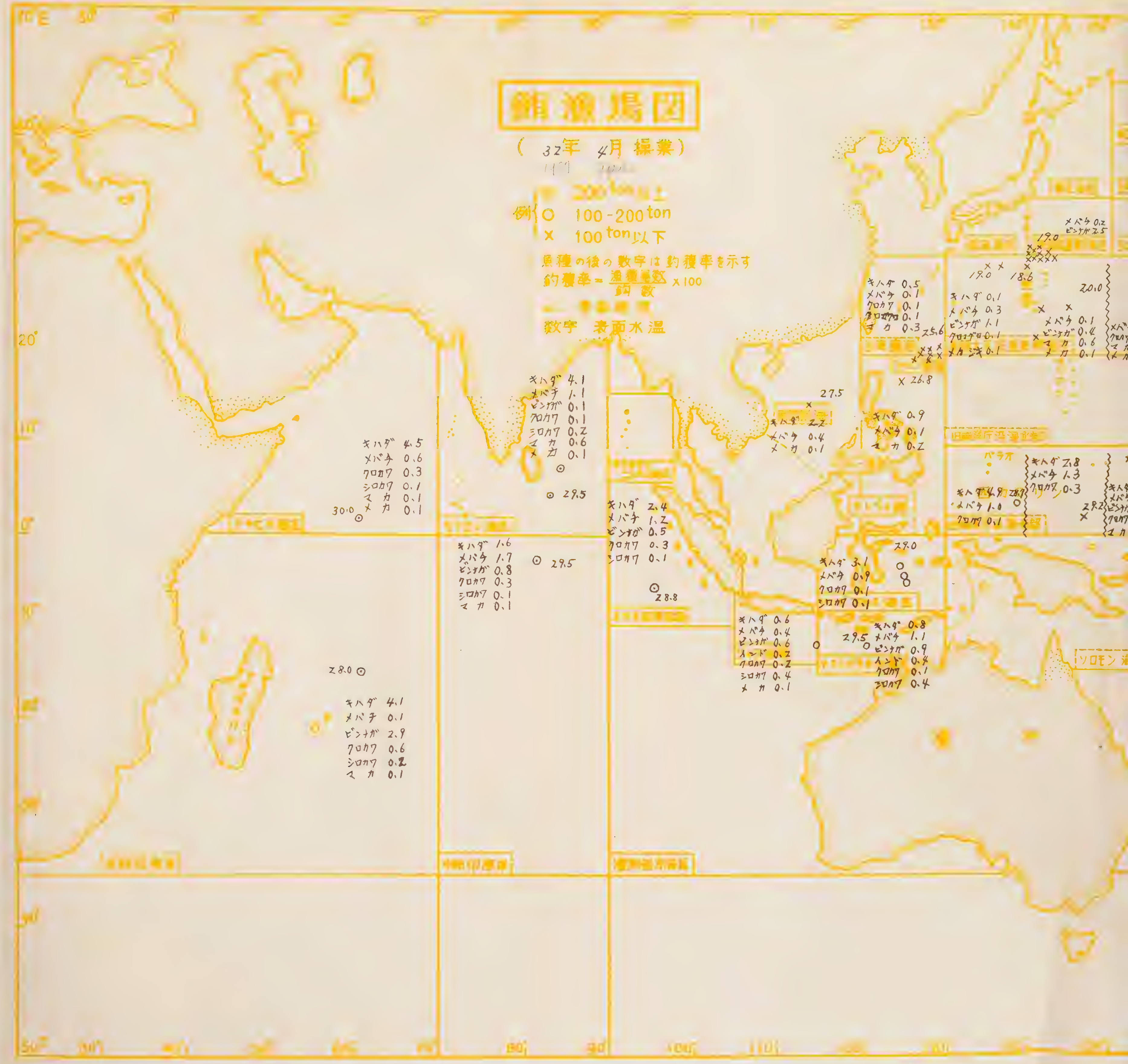
1HP～3HP



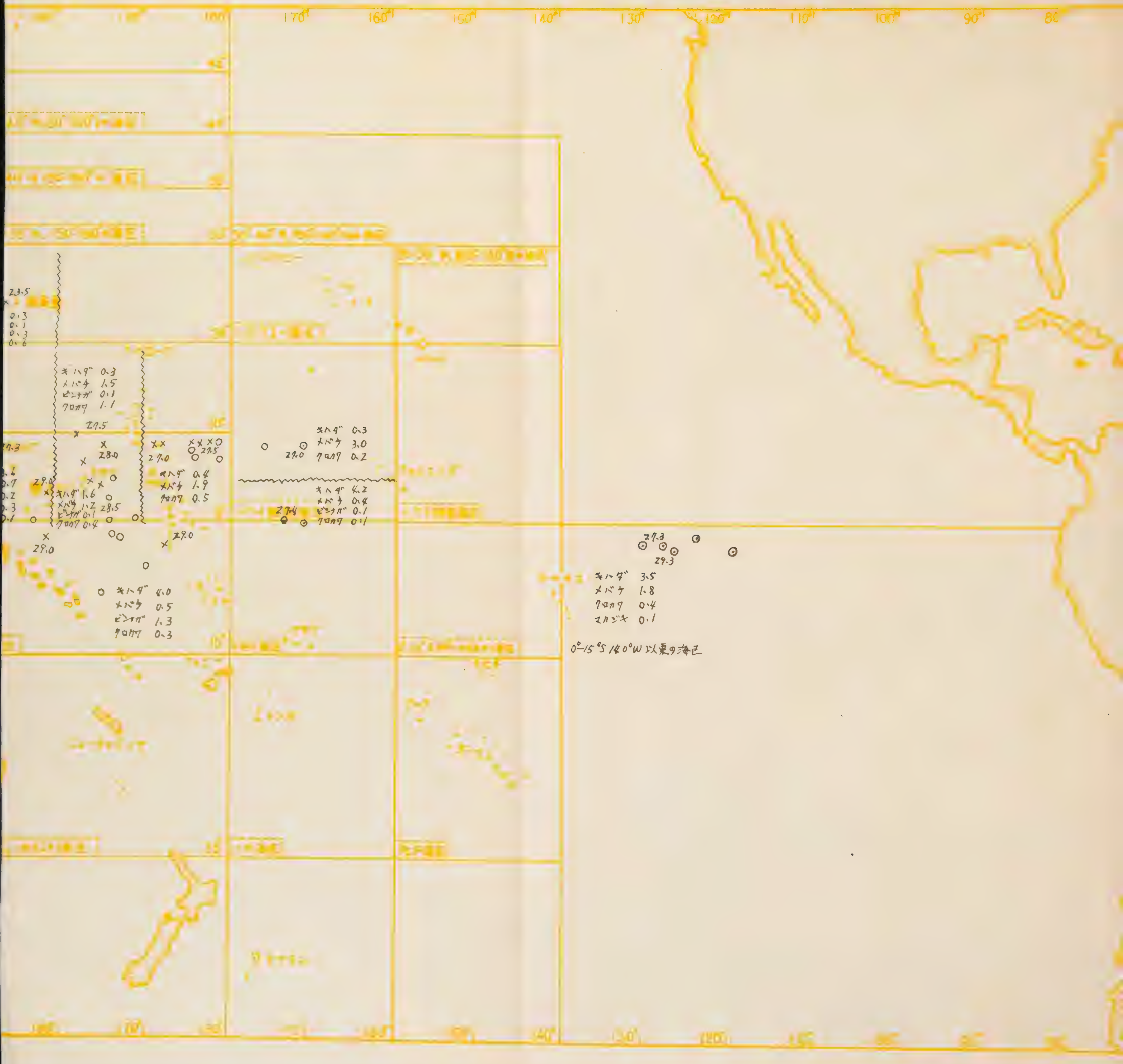
其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四（電）湊川（5）7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目（日比谷ビル）（電）（59）6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）



鮪漁場図
(32年 4月 操業)
例
○ 100-200 ton
× 100 ton以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率 = 漁獲尾数 / 釣数 ×100
数字 表面水温
キハダ 4.1
メバチ 1.1
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.1
シロカワ 0.2
マカ 0.6
メカ 0.1
29.5
キハダ 4.5
メバチ 0.6
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
マカ 0.1
メカ 0.1
30.0
キハダ 1.6
メバチ 1.7
ビンナガ 0.8
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
マカ 0.1
29.5
キハダ 2.4
メバチ 1.2
ビンナガ 0.5
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
28.8
28.0
キハダ 4.1
メバチ 0.1
ビンナガ 2.9
クロカワ 0.6
シロカワ 0.2
マカ 0.1
キハダ 0.5
メバチ 0.1
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
マカ 0.3
25.6
キハダ 0.1
メバチ 0.3
ビンナガ 1.1
クロカワ 0.1
メカジキ 0.1
19.0
18.6
20.0
メバチ 0.1
ビンナガ 0.4
マカ 0.6
メカ 0.1
メバチ 0.2
ビンナガ 2.5
26.8
27.5
キハダ 2.2
メバチ 0.4
メカ 0.1
キハダ 0.9
メバチ 0.1
マカ 0.2
パラオ
キハダ 2.8
メバチ 1.3
クロカワ 0.3
キハダ 4.9
メバチ 1.0
クロカワ 0.1
28.7
29.2
29.0
キハダ 3.1
メバチ 0.9
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
キハダ 0.6
メバチ 0.4
ビンナガ 0.6
インド 0.2
クロカワ 0.2
シロカワ 0.4
メカ 0.1
29.5
キハダ 0.8
メバチ 1.1
ビンナガ 0.9
インド 0.4
クロカワ 0.1
シロカワ 0.4
ソロモン
20°
0°



170°
160°
150°
140°
130°
120°
110°
100°
90°
23.5
0.3
0.1
0.3
0.6
キハダ 0.3
メバチ 1.5
ビンナガ 0.1
クロカワ 1.1
27.5
28.0
27.0
27.5
29.0
キハダ 1.6
メバチ 1.2
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.4
28.5
キハダ 0.4
メバチ 1.9
クロカワ 0.5
29.0
27.0
キハダ 0.3
メバチ 3.0
クロカワ 0.2
キハダ 4.2
メバチ 0.4
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.1
キハダ 4.0
メバチ 0.5
ビンナガ 1.3
クロカワ 0.3
27.3
29.3
キハダ 3.5
メバチ 1.8
クロカワ 0.4
マカジキ 0.1
0°–15°S 140°W 以東の海区

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

（昭和32年4月現況）

三　崎　　鮪漁業研究会　（調査研究部）
神奈川県水産試験場　（資源部鮪担當）
東京，焼津　南海区水産研究所　（遠洋資源部）

1　調査の概要

昭和32年4月分として調査を実施した鮪延縄漁船数は、やゝ少なく80，体長測定船数は43，調査海区数は21である。

2　漁況の概要

（キ　ハ　ダ）

0°—15°S, 140°W以東の海区では、好漁が続き、ハワイ南西海区では、5°N以北は依然として低率であるが、5°N以南では、4月に入つて4.16を示し、急増がみられた。西部太平洋、南洋北部は不漁であるが、南洋南部は、180度線附近を除いて西寄りに好漁となつている。ソロモン海区は、高率期を迎えて先月より上昇し、フイリピン東海は低率、南支那海は増加の傾向をみせている。バンダ・フロレス海区のキハダは上昇期に入り、小スンダ・チモール、ジヤワは低率、スマトラ西岸、セイロンの両海区は好漁、中部および西部印度洋海区は不漁、アラビア海区は西部印度洋とほゞ同率の4.53であつた。大西洋の象牙海岸西南海区においては釣獲率10.85と先月に比して倍の釣獲率を得た。

（メ　バ　チ）

0°—15°S, 140°W以東の海区、ハワイ南西5°N以南は不漁、以北では好漁である。伊豆諸島附近、西部太平洋も低調で、南洋北部および南部海域がやゝ好漁、ソロモンでは0.47で冬季の率を維持し、バンダ・フロレス、小スンダでは上昇期と推察され、ジヤワ沿海、スマトラ西岸沿海は不漁期、セイロンは先月と同率である。中部印度洋は好漁、西部は不漁、大西洋の象牙海岸西南では激減した。

（ビ　ン　ナ　ガ）

伊豆諸島東方海区および西部太平洋海区では下降期であるが、前者は2.54となお高く、後者はほとんど終漁となつた。ソロモン海区ではさらに増加が続いて好漁、小スンダ・チモール海区ではやゝ増加の兆があり、ジヤワ沿海では、2.3月と急増があつたが、4月は急減し、スマトラ西岸沿海は、3月より僅か増加しているものゝ、まだ低率である。印度洋では、中部は先月の好漁より半減し、西部は上昇を続けて好漁である。大西洋象牙海岸西南海区では、急激な減少をみて不漁となつた。

（ク　ロ　カ　ワ）

赤道以北の太平洋は不漁、0°—15°S, 140°W 以西の海区およびソロモン海区は、南洋南部とおゝむね同率で低調である。中部、西部印度洋では、3月と同様の釣獲率が続き、アラビア海区は不漁である。大西洋象牙海岸西南では不漁になつている。

（シロカワ、マカジキ、メカジキ）

ジヤワ沿海および小スンダ・チモールのシロカワはやゝ好漁で、マカジキはセイロン海区に好漁があり、西部太平洋東方、台湾東海、フイリピン東海も比較的高率である。メカジキは、西部太平洋の南鳥島附近で最も高率を示して0.55であつた。

3 各海区の漁況

A．赤道以南140°W 以東漁場

（0°—15°S, 140°W以東の海区）

130°—120°W, 0°—4°S を中心とした海域で、5隻調査されている。

（キ　ハ　ダ）

この海区のキハダは、本年1月以来、3.5前後の釣獲率が続いて漁況は活潑である。体長組成の中心は、2月と同様に141—150cmにある。

（メ　バ　チ）

1, 2月の間は、船による釣獲率の差はあつたが、3.5—4.0程度の高率があらわれていたこの海区も、4月となつて1.8と半減、低率期に向つたようである。この海区のメバチは大型で、4月の調査では、悉く151cm以上であり、151—160cmのものが半数を占めていた。

（ク　ロ　カ　ワ）

平均釣獲率は0.37で、2月の0.27よりやゝ高くなつた。体長組成は、161—170cmとにモードがある。

B．赤道以北180°—140°W 漁場

（ハワイ南西海区）

ハワイ南西海区では、5°N以北で2隻、以南で2隻、計4隻が調査された。

（キ　ハ　ダ）

5°N 以北の海域では、1月から3月えかけて僅か上昇をみたが、4月は0.29と減少来月から増加を始め、夏季に入つて1.5—2.0の率に達するものと思われる。5°N 以南では高率期を向えて俄然4.16と激増をみた。2—3ヶ月間は、ほゞこの率が維持されるであろう。体長組成については、5°N 以北は調査出来なかつたが、以南では、先月来小型魚が増えて、121—130cmにモードがある。

（メ　バ　チ）

5°N 以北では、なお好漁期にあつて2.96であるが、夏季に向つて漸減がみこまれる。以南は0.36で不漁、体長組成は3月と同様で、101—120cmと150—160cmにモードがある。

（ビンナガ、クロカワ）

ビンナガは不漁、クロカワも不漁であるが、5°N 以北における5—6月の増加が期待される。

C. 北部太平洋漁場

（伊豆諸島東方海区、西部太平洋亜熱帯海区）

伊豆東方の調査船は南西部で11隻、西部太平洋では、南鳥島から小笠原北西部にかけて7隻であつた。

（キ　ハ　ダ）

両海区とも不漁期で低調な漁況である。

（メ　バ　チ）

両海区同様に 0.2 前後の率で、3 月より低下し、依然として不漁期が續いている。伊豆東方では、101—110cmに山があり。西部太平洋は、先月と同じく91—100cmが組成中心になつている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガも不漁期に入り、伊豆東方は3月の3.44から2.54, 西部太平洋は4.55から0.53にそれぞれ減少した。西部太平洋の150°E 以東には、既に漁獲なく、150°—140°E—0.42, 140°—130°E—1.10 の釣獲率である。体長組成は、71—80cm にモードがあつて、他の海区のビンナガにくらべて小型である。

（クロカワ、マカジキ、メカジキ）

全般的に不漁で、西部太平洋海区の 140°—150°E の海域において、マカジキが0.56 150°—160°Eにおいて、メカジキが0.55を示している程度に過ぎない。

D. 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海北部、同南部）

北部海区では、160°—165°E, 10°—11°N 附近において 1 隻を調査したにとゞまり、南部では、170°E以東で 9 隻、以西で13隻であつた。

（キ　ハ　ダ）

北部は、3 月の0.16から0.25とあまり変化なく不漁、南部170°E以東は、3 月の1.21から0.40と低下を續け、5 月から好漁期に向い始めよう。以西は、3 月 2.09 が 2.22となり、経度別にみると、130°—140°E—4.89 が最も高率、140°—150°E, 150°—160°E もそれぞれ上昇して 2.76, 3.62 と高率で、160°—170°E が 1.63 と比較的低調、以西海域は西寄りに好漁である。体長組成は、両海区とも3月とほとんど變らず、北部は111—120cm南部は 121—130cmにモードがある。

（メ　バ　チ）

北部 170°E 以西は、2 月より不漁であつたが、4 月に入つて 1.51 と増加をみせ、南部 170°E以東は 1.94 で好漁、以西も 1.0 程度でこの海域のメバチとしては好漁が続いている。北部は 101—110cm, 131—140cmに、南部は 111—120cm, 141—150cmにそれぞれ 2 つのモードがみられる。

（ビンナガ、クロカワ）

ともに不漁であるが、北部150°—160°Eでは、クロカワが1.14と上昇し、南部のクロカワも、3月0.3から4月0.4—0.5と上昇期に入るようである。ビンナガは、南部150°—160°Eで最も高く0.23, 81—90cmにモードがある。クロカツの体長組成は、北部および南部以東、以西とも、161—170cmが中心となつている。

E. ソロモン、ニユーカレドニア海区漁場

（ソロモン海区）

ソロモン海区においては、赤道附近で3隻、5°S線附近で2隻、10°S線で1隻、計6隻を調査した。

（キ　ハ　ダ）

ソロモン海区北部のキハダは、南洋南部の西寄りの海域とほゞ同様の消長を示しているようで、3月の海区平均釣獲率は2.59であつたが、4月4.00と急増して、0°—10°Sの海域は好漁期初期と思はれる。体長組成の中心は、2月と同様に111—120cmにあるが、小型が減少して大型が増えている。

（メ　バ　チ）

3月に5°S以北、170°E附近で0.33と低下したメバチは、4月0.60とやゝ増え、10°S線附近では、0.22と低率である。体長成組成は、3月とほゞ同形で、101—110cmと141—150cmとにモードがある。

（ビ　ン　ナ　ガ）

0°—5°S, 170°Eでは0.54と不漁が續き、10°S附近は、1.66でやゝ高く好漁期に入つている。10°S以南は、さらに多少高率になつているものと考えられる。体長組成は3月のニユー・カレドニア海区と同形で、91—100cmの型が63%に達している。

（ク　ロ　カ　ワ）

全般的な好漁が続いて、10°S附近では0.5, 0°—5°Sでは、0.2と南寄りに高率である。3月のニユー・カレドニア海区の体長組成とほゞ同様に、161—170cmにモードがあるが、小型魚の増加がめだつている。

（その他のカジキ類）

シロカワ、マカジキ、メカジキともに不漁である。

F. 西太平洋漁場

（台灣東海、フイリピン東海、南支那海）

台灣東海区では、その南東部で8隻調査され、フイリピン東海北部で1隻、また南支那海の中央部の1隻が調査された。

（キ　ハ　ダ）

台灣東海は0.53で、昨年、一昨年の1.1, 1.2とくらべて低率である。フイリピン北部では、ほゞ台湾東海に等しく0.89, 南部の海域は遙かに高率と思われる。南支那海は、3月の1.64からやゝ上昇して2.20, 夏に向つて好漁が見込まれる。台灣東海海区の体長組成は、3月のフイリピン東方海区と同じく121—130cmにモードがあるが、

僅か大型の傾向で、南支那海は先月のように 121—130cm のモードがはつきりあらわれていない。

（メ　　バ　　チ）

台灣東海、フィリピン東方北部とも漁獲されてはいるが、0.10, 0.14 と低く、南支那海は 0.37 で不漁である。台灣東海の体長組成は、91—100 cm と 131—140 cm とに山がみられる。

（クロカワ、マカジキ）

クロカワは台灣東海で 0.10, マカジキは同海区で 0.26, フィリピンで 0.22 とそれぞれ低調ながら、これらの海区としては好漁である。台灣東海のクロカワは、141—150cm と 221—230cm とに 2 つの山があつて、体長階級の範囲が廣く、同海区のマカジキは、151—160cmのモードでやゝ小型が多い。

G. 東部印度洋漁場

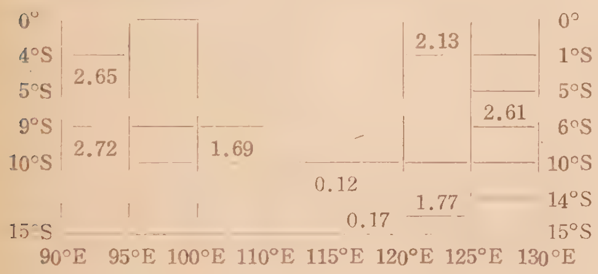
（バンダ・フロレス海区、小スンダ・チモール沿海、
ジヤワ沿海、スマトラ西岸沿海）

調査海域は、バンダ海、小スンダおよびジヤワ南岸からスマトラ西南 5°—10°S 線附近で、バンダ・フロレス 3 隻、小スンダ、ジヤワ、スマトラ各 1 隻であつた。

（キ　　ハ　　ダ）

バンダ・フロレスでは好漁期で 3.07 の高率、小スンダは、3月 0.42 から0.83と上昇したが、ジヤワは更に減じて0.57を示し、小スンダ、ジヤワの両海区は、5 月から高率期に入るものと期待される。スマトラ西岸沿海では2.35でやゝ低下したが、依然として好漁が続いている。体長組成はジヤワ沿海では 3 月と同形でバンダ・フロレスも同様である。

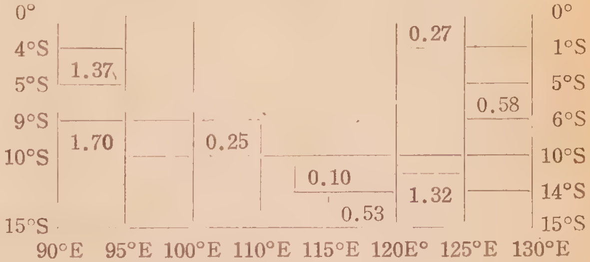
図 1. 東部印度洋におけるキハダの漁況 (32.4)



（メ　　バ　　チ）

全般的に不漁期にあるが、バンダ・フロレス海区、小スンダ・チモール海区では、上昇期に向う傾向が感じられる。キハダと同様に10°S線を境にして、以北は以東より高率である。体長組成の山は、131—140cmにあり、バンダ・フロレス、ジヤワ沿海とも同形である。

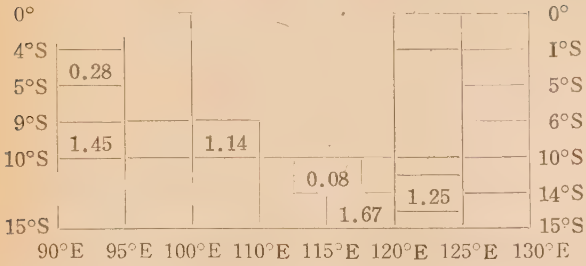
図 2. 東部印度洋におけるメバチの漁況 (32.4)



（ビ　ン　ナ　ガ）

小スンダ・チモールの海区のビンナガは、冬の不漁期から次第に好漁期に転じている模様で、ジヤワ沿海海区は 2, 3 月のかなりの好から減少、スマトラ西岸沿海では、

図 3. 東部印度洋におけるビンナガの漁況 (32.4)



3月0.09の不漁から0.54と増加しているが、当分不漁が続くものと考えられる。体長組成調査船はスマトラ西岸沿海の1隻のみで、2,3月のジヤワ沿海海区と同じく、101—110cm に組成の山がみられる。

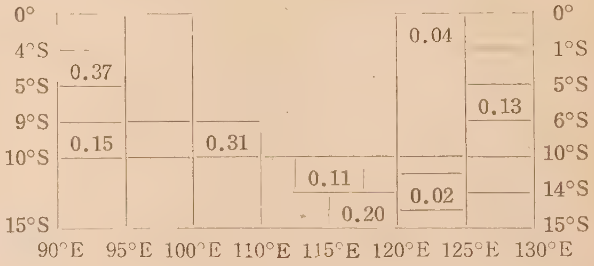
(インド　マグロ)

小スンダ•チモール海区、ジヤワ沿海海区とも好漁期を終り、3月に比較すると、漁獲にみるべきものはほとんどなく、小スンダ•チモール0.33, ジヤワ0.22で不漁期となつた。今後、約2ケ月は低率が続く見込みである。

(ク　ロ　カ　ワ)

バンダ•フロレス海区、小スンダ•チモール海区のクロカワは、30年の末以来、0.1—0.2の釣獲率範囲にあり、低調な漁況の連続である。ジヤツ沿海では、31年12月本年2月0.4と上昇をみたが、3月0.24と半減、4月0.15で5,6月も不漁であろう。スマトラ西岸沿海海区における4月はクロカワ不漁の終期に当るようで、0.30を示して、東中部印度洋の本月の調査では最も高率であるが、初夏には更に高率となる見込である。4月のジヤワ沿海における体長測定尾数は非常に少く、バンダ•フロレス海区とスマトラ西岸沿海海区の体長組成をみると、共に161—170cmにモードがあつて、中型が多く、3月の小スンダ•チモール、ジヤワ沿海の両海区と殆んど同形である。

図 4. 東部印度洋におけるクロカワの漁況 (32.4)



(その他のカジキ類)

バンダ•フロレス海区のシロカワは本年1月の1.35の率から2月0.10と激減、4月も0.09とひき続いて低く、今迄の傾向をみると、この低率が今後ほゞ1ケ年続くように考えられる。小スンダ•チモールでは0.36, ジヤワでは0.44とやゝ高く、スマトラ西岸沿海は不漁で0.08である。マカジキ、メカジキも低率である。

H. 中、西部印度洋漁場

(セイロン海区、中部印度洋海区、アラビア海区、西部印度洋海区)

セイロン海区では、セイロン國南東方で2隻、他海区では、それぞれ1隻づゝ調査されている。

(キ　　ハ　　ダ)

7ケ月ぶりにアラビア海区の南部が調査され、4.53の好漁を得ているものゝ、昨年および一昨年の同時期における釣獲率と比較すれば、⅓, ½ の値であり、年々漁況の

低下を招いている事実を、こゝにもはつきり見ることが出來る。セイロン海区は、3月2.83から4.13と増加して好漁、中部印度洋海区は、31年12月5.0から月を追つて減少し、4月2°—3°S, 81°—82°E の海区で1.55の不漁となり、西部印度洋海区は、昨年10月の低率4.5から、本年1月の6.9まで上昇したが、4月4.12と低下した。体長測定調査は、セイロン海区のみにとどまり、組成の山が141—150cmにあつて、3月と変りがないが、3月のように中型が多くない。

（メ　バ　チ）

セイロン海区と中部印度洋海区の好漁は、なお続いていて、セイロンでは、3月に變らず1.06, 中部印度洋赤道附近においては、1.73とほとんど倍増した。アラビア海区は、0.64の低率で不漁、西部印度洋海区7°—170°S, 6°—70°E附近は、0.14できわめて不漁となつた。セイロン海区における体長組成をみると、111—120cm, 131—140cm, 151—160cmに山があつて、3月の中部印度洋の組成に酷似している。

（ビ　ン　ナ　ガ）

西部印度洋海区では、ビンナガの好漁が続き、4月はさらに2.93と急激な増加をみせている。中部印度洋海区も好漁期にあるが、3月1.47から減少して0.78を示した。セイロン海区は0.08, アラビア海区は0.03で、ともに不漁である。セイロン海区の体長組成は、3月の中部印度洋と同形で、101—110cmにモードがある。

（ク　ロ　カ　ワ）

西部印度洋海区、中部印度洋海区とも好漁で、それぞれ0.55, 0.26を示しているがアラビア海区では0.27と低率、セイロン海区も低い。

（シロカワ、マカジキ）

各海区とも不漁であるが、セイロン海區のマカジキは0.61となり、体長組成の山は171—180cmにあつて、3月のセイロン、中部印度洋、西部印度洋の3海区に変らない。

I. 大西洋漁場

（象牙海岸西南海区）

4月の調査船は3隻で、1隻は赤道以北の1°—2°N, 16°—18°Wで南赤道流と赤道反流の作る潮境と思われる海域を主漁場とし、他の2隻は1°—3°N, 3°W附近のギニア海流域および13°—15°Wの収れん線で操業している。体長測定調査は、3隻とも実施できなかつた。

大西洋の象牙海岸西南海区赤道反流流域およびギニア海流流域における各魚種の周年変化については、その傾向が、まだ明らかになつていない。

漁場圖は、5月の大西洋漁場參照のこと。

（キ　ハ　ダ）

1°—3°N, 16°—18°W の潮境では、水温28.0—29.8°Cで釣獲率8.58であり、この船の同時期の3°N, 43°Wにおける1回の操業では、1.32の低率であつた。水温26.7°C この潮境附近から、ギニア海流流域にかけて操業した2隻は、11.32の高率で東寄りに高く、海区平均釣獲率は10.85であつた。

（メ　バ　チ）

キハダの高率に比して、メバチは極めて低率で 0.16 を示し、16°—18°W の海域で 0.22, ギニア海流流域にかけて操業した 2 隻は、0.15 を得て僅か低い。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガにおいても、メバチと同様に低率で1.38に過ぎず、この海域は不漁期とみなされる。1°—3°N, 16°—18°W 附近は 1.65, 他の西寄りの 2 隻は 1.33 である。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

各魚種とも不漁である。

表 1. 象牙海岸西南海区における漁況 (32.4)

海域	水温	調査隻数	キハダ	メバチ	ビンナガ	クロカワ	シロカワ	マカジキ	メカジキ	バショウ
1～3°N 16～18W	26.7 ⫶ 29.8	1	8.58	0.22	1.65	0.27	——	0.05	0.08	——
1～3N 2～15W	26.8 29.0	2	11.32	0.15	1.33	0.24	0.14	0.02	0.02	0.11
合計		3	10.85	0.16	1.38	0.24	0.12	0.03	0.03	0.09

鮪類標識放流について

昭和 32 年 11 月 1 日より 11 月 30 日迄に放流実施の報告のあつた船数は 1 隻（5 尾）である。

放流実施船名及び実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾數）
13 丸高丸	A 0566 0567 0568 0569 0570	30.11.7～ 30.11.9	12° — 13°N 153° — 154°E	きはだ (5)

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁　　場	操業区域	調査 隻数	水温 (C°)	流　向 流　速	操業 回数	漁具数	鈎　数		ま きはだ	 めばち
0°—15°S 140°W以東	0°— 4°S 144°—115°W	5	26.5 29.3		147	70,026	337,920	尾数 %	11765 3.48	5997 1.77
ハワイ南西 (5°N以北)	7°— 10°N 178°—165°W	2 (2)	26.5 28.0		28	11,317	44,568		130 0.29	1319 2.96
ハワイ南西 (5°N以南)	0°— 3°N 176°—169°W	2 (2)	27.0 27.9		16	4,069	24,326		1012 4.16	87 0.36
伊豆諸島	29°— 32°N 139°—149°E	11	16.9 21.0		184	39,464	201,948		42 0.02	473 0.23
西部太平洋	23°— 33°N 134°—155°E	7	16.8 24.5		95	21,320	107,718		48 0.04	198 0.18
南洋北部	10°— 11°N 162°—164°E	1	27.3 27.8		16	4,560	18,240		46 0.25	275 1.51
南洋南部 (170°E以東)	7°— 9°N 171°—180°E	9	26.4 28.2		195	70,304	304,768		1221 0.40	5910 1.94
南洋南部 (170°E以西)	0°— 10°N 138°—174°E	13	27.2 29.8		204	67,254	317,831		7048 2.22	3394 1.07
ソロモン	0°— 13°S 157°—180°E	6	27.6 29.7		125	43,476	202,679		8111 4.00	955 04.7
台灣東海	17°— 24°N 125°—130°E	8	23.4 28.0		150	38,701	162,564		859 0.53	160 0.10
フイリピン	16°— 21°N 124°—130°E	1	26.2 27.2		16	4,096	20,480		182 0.89	28 0.14
南支那海	14°— 15°N 113°—115°E	1	26.9 28.1		15	4,360	17,440		384 2.20	65 0.37
バンダ フロレス	0°— 6°S 120°—131°E	3 (1)	28.0 30.1		77	27,204	136,020		4171 3.07	1220 0.90
小スンダ	11°— 14°S 115°—121°E	1	28.9 30.0		24	8,930	44,650		371 0.83	481 1.08
ジヤワ沿海	12°— 14°S 114°—118°E	1	28.7 29.8		13	5,330	26,650		152 0.57	103 0.39
スマトラ西岸	4°— 10°S 90°—100°E	1	27.9 29.6		26	9,620	48,100		1130 2.35	570 1.19
セイロン	4°— 9°N 81°— 90°E	2 (2)	29.1 30.5		23	9,200	46,000		1901 4.13	488 1.06
中部印度洋	2°— 3°S 81°— 82°E	1 (1)	29.3 29.7		12	4,800	24,000		372 1.55	415 1.73
アラビヤ	0°— 9°N 57°— 88°E	1 (1)	28.6 31.0		38	15,200	76,000		3446 4.53	489 0.64
西部印度洋	7°— 17°S 59°— 72°E	1 (1)	27.0 28.5		30	11,950	59,750		2464 4.12	84 0.14
大西洋 (象牙海岸南西)	1°— 3°N 2°— 42°W	3	26.7 29.8		111	60,406	233,230		25305 10.85	379 0.16
合　　計	21	80			1545	531,587	2,454,882		70160 2.86	23090 0.94

(昭和32年4月操業分)

(別表 1)

びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう	かつを	雑	さめ	計	記事
3 0.00	1 0.00		1258 0.37	92 0.03	184 0.05	145 0.04	6 0.00	130 0.04	152 0.04	1029 0.30	20702 6.13	鮫未調査隻数 体長測定隻数
2 0.00			92 0.21	1 0.00	18 0.04	4 0.01	31 0.07	16 0.04	21 0.05	134 0.30	1768 3.97	1 1
30 0.12			35 0.14	9 0.04		2 0.01		133 0.55	6 0.02	100 0.41	1414 5.81	1 1
5136 2.54	58 0.03		14 0.01		41 0.02	77 0.04		1 0.00	82 0.04	528 0.26	6452 3.19	1 5
570 0.53	29 0.03		22 0.02		370 0.34	190 0.18		1 0.00	110 0.10	960 0.89	2498 2.32	
19 0.10			208 1.14	1 0.00		1 0.00	28 0.15		182 1.00		760 4.17	
4 0.00			1397 0.46	13 0.00	27 0.01	41 0.01	302 0.10	29 0.01	234 0.08	274 0.09	9452 3.10	8 4
434 0.14	3 0.0		1130 0.36	44 0.01	67 0.02	32 0.01	285 0.09	31 0.01	172 0.05	137 0.04	12777 4.02	
2709 1.34	2 0.00		581 0.29	39 0.02	2 0.00	85 0.04	170 0.08	177 0.09	83 0.04	209 0.10	13123 6.47	3 2
59 0.04	148 0.09		156 0.10	11 0.01	418 0.26	47 0.03	374 0.23	9 0.01	299 0.18	367 0.23	2907 1.79	1 8
2 0.01	3 0.01		14 0.02	6 0.03	46 0.22	1 0.00	6 0.03		13 0.06		301 1.47	
			4 0.02	5 0.03	5 0.03	9 0.05	4 0.02		44 0.25		520 2.98	
			103 0.08	124 0.09	11 0.01	35 0.03	101 0.07				5765 4.24	3 1
419 0.94		147 0.33	38 0.09	161 0.36	3 0.01	26 0.06	8 0.02				1654 3.70	
158 0.59		58 0.22	39 0.15	116 0.44	3 0.01	20 0.08					649 2.44	
259 0.54			145 0.30	39 0.08	17 0.04	2				19 0.04	2181 4.60	
39 0.08			76 0.17	74 0.16	282 0.61	31 0.07	48 0.10				2939 6.39	2 1
188 0.78			62 0.26	13 0.05	26 0.11	8 0.03	2 0.01				1086 4.53	
19 0.03			203 0.27	58 0.08	98 0.13	47 0.06	61 0.08			191 0.25	4612 6.07	
1748 2.93	1 0.00		331 0.55	92 0.15	39 0.07	11 0.02	20 0.03		42 0.07	54 0.09	4886 8.18	
3223 1.38	18 0.01		567 0.24	278 0.12	62 0.03	74 0.03	209 0.09				30115 12.91	3 0
15021 0.61	263 0.01	205 0.01	6475 0.26	1176 0.05	1719 0.07	888 0.04	1655 0.07	527 0.02	1440 0.06	4002 0.16	126561 5.16	23 23

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年4月操業分）

（別表2）

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	0°—15°S 140°W以東	1°—4°S 129°—128°W	25	尾数								7	12	18	117	79	29	9	271	1883
					%								2.6	4.4	6.6	43.2	29.2	10.7	3.3	100	
	1	ハワイ南西 5°N以南	1—9N 178—171W	23								1	4	22	6	1				34	918
												2.9	11.8	64.7	17.6	2.9				100	
き	2	伊豆諸島	30—32N 140—141E	30							1	1					1			3	3
											33.3	33.3					33.3			100	
	5	西部太平洋	24—33N 134—155E	66							3	3	7	6	3	4	1			27	30
											11.1	11.1	25.9	22.2	11.1	14.8	3.7			100	
	1	南洋北部	10—11N 162—164E	16								2	21	20	3					46	46
												4.4	45.7	43.5	6.5					100	
	3	南洋南部 170°E以東	6—10N 172—180E	56								1	26	73	7	4	1			112	390
												0.9	23.2	65.2	6.2	3.6	0.9			100	
は	7	南洋南部 170°E以西	0—10N 138—174E	115				1		14	10	36	450	265	47	20	1			844	
								0.1		1.7	1.2	4.3	53.3	31.4	5.6	2.4	0.1			100	
	2	ソロモン	0—13S 163—168E	48							26	29	185	118	34	10	1			403	3098
											6.5	7.2	45.9	29.3	8.4	2.5	0.2			100	
	7	台灣東海	17—24N 124—130E	132					1	13	29	25	40	156	95	37	5	3		414	776
									0.2	3.2	7.2	6.2	9.9	38.6	23.5	9.2	1.2	0.7		100	
	1	南支那海	14—15N 113—115E	15					1				27	24	26	14	4	1		97	384
									1.0				27.9	24.7	26.8	14.4	4.1	1.0		100	
だ	1	バンダ フロレス	0—6S 124—129E	22			1	3		1	10	88	28	29	19	7				186	1242
							0.5	1.6		0.5	5.4	47.3	15.1	15.6	10.2	3.8				100	
	1	ジヤワ沿海	12—14S 114—118E	13			2			2	1	24	22	24	20	13	1			109	152
							1.8			1.8	0.9	22.0	20.2	22.0	18.3	11.9	0.9			100	
	1	スマトラ西岸	4—10S 90—100E	26							13	59	8	44	41	49	4	1		219	1130
											5.9	26.9	3.7	20.1	18.7	22.4	1.8	0.5		100	
	2	セイロン	4—7N 81—83E	14			1		2	4	6	20	15	26	27	30	16	2		149	2001
							0.7		1.3	2.7	4.0	13.4	10.1	17.5	18.1	20.1	10.7	1.3		100	

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計	漁獲尾数
め	1	0°—15°S 140°W以東	1°—4°S 129°—128°W	25	尾数											13	5	5	3	26	1072
					%											50.0	19.2	19.2	11.5	100	
	1	ハワイ南西 5°W以南	1—9N 178—171W	23							6	6	4	5	5	8	2	2	4	42	426
											14.3	14.3	9.5	11.9	11.9	19.0	4.8	4.8	9.5	100	
	5	伊豆諸島	28—32N 139—149E	88					9	56	65	15	5	1	4	2				157	205
									5.7	35.7	41.4	9.6	3.2	0.6	2.5	1.3				100	
	5	西部太平洋	24—33N 134—155E	66				4	8	59	27	15	10	1	12	15	5	1	2	159	175
								2.5	5.0	37.1	17.0	9.4	6.3	0.6	7.5	9.4	3.1	0.6	1.3	100	
ば	1	南洋北部	10—11N 162—164E	16					1	3	35	15	18	26	12	10	1	1		122	258
									0.8	2.5	28.7	12.3	14.8	21.3	9.8	8.2	0.8	0.8		100	
	4	南洋南部 170°E以東	6—10N 172—178W	76							51	53	32	49	60	46	26	25	7	349	2031
											14.6	15.2	9.2	14.0	17.2	13.2	7.4	7.2	2.0	100	
	8	南洋南部 170°E以西	0—10N 138—174E	122			2	4	4	48	100	48	61	64	80	57	20	15	1	504	2287
							0.4	0.8	0.8	9.5	19.8	9.5	12.1	12.7	15.9	11.3	4.0	3.0	0.2	100	
	2	ソロモン	0—13S 163—168E	48					1	22	30	9	5	9	14	10	1	1		102	355
									1.0	21.6	29.4	8.8	4.9	8.8	13.7	9.8	1.0	1.0		100	
	7	台灣東海	17—24N 124—130E	132			1		6	29	7	12	10	20	14	2	4	3	3	111	138
							0.9		5.4	26.1	6.3	10.8	9.0	18.0	12.6	1.8	3.6	2.7	2.7	100	
ち	1	南支那海	14—15N 113—115E	15		3				2	4	3	4	5	2	5	1			29	65
						10.3				6.9	13.8	10.3	13.8	17.2	6.9	17.2	3.5			100	
	1	バンダ フロレス	0—6S 124—129E	22				1		1	1	9	17	18	11	2	1			61	328
								1.6		1.6	1.6	14.8	27.9	29.5	18.0	3.3	1.6			100	
	1	ジャワ沿海	12—14S 114—118E	13						4	5	6	20	25	11					71	103
										5.6	7.0	8.5	28.2	35.2	15.5					100	
	1	セイロン	4—7N 81—83E	14		1	6	1	3	5	10	17	13	15	8	13	2	1		95	708
						1.1	6.3	1.1	3.2	5.3	10.5	17.9	13.7	15.8	8.4	13.7	2.1	1.1		100	

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		40 cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上					計	漁獲尾数
び	1	ハワイ南西 5°N以南	1—9N 178—171W	23	尾数							3	3							6	29
					%							50.0	50.0							100	
	3	伊豆諸島	29—32N 139—149E	52				3	8	72	15	2								100	
								3.0	8.0	72.0	15.0	2.0								100	

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
ん	3	西部太平洋	24°—33°N 134°—149°E	40					1 1.3	3 3.8	45 57.7	29 37.2									78 100	372
	1	南洋北部	10—11N 162—164E	16									6 37.5	5 31.3	5 31.3						16 100	19
な	5	南洋南部 170°E 以西	0—10N 153—168E	79						2 0.9	52 23.0	76 33.6	72 31.9	19 8.4	5 2.2						226 100	347
	2	ソロモン	0—13S 163—168E	48								56 33.7	104 62.7	6 3.6							166 100	1016
が	7	台灣東海	17—24N 124—130E	132									27 49.1	13 23.6	14 25.5	1 1.8					55 100	57
	1	スマトラ西岸	4—10S 90—100E	26								1 1.1	25 27.2	58 63.0	8 8.7						92 100	259
	1	セイロン	4—7N 81—83E	14									11 28.2	24 61.5	4 10.3						39 100	227
	1	0°—15°S 140°W以東	1°—4°S 129°—128°W	25	尾数 %					8 22.2	6 16.7	4 11.1	4 11.1	6 16.7	3 8.3	4 11.1		1 2.8			36 100	282
	1	ハワイ南西 5°N 以南	1—9N 178—171W	23					3 12.0	7 28.0	7 28.0		1 4.0	2 8.0	1 4.0	2 8.0	1 4.0		1 4.0		25 100	50
く	1	伊豆諸島	28—31N 141—147E	22					5 35.7	8 57.1	1 7.1										14 100	14
	1	西部太平洋	24—31N 141—149E	19											2 100.0						2 100	3
	1	南洋北部	10—11N 162—164E	16			6 2.2	21 7.6	78 28.4	102 37.1	36 13.1	5 1.8	7 2.5	6 2.2	10 3.6		1 0.4	2 0.7	1 0.4		275 100	275
ろ	4	南洋南部 170°E 以東	6—10N 172E—178W	76			1 0.5	5 2.6	23 11.9	78 40.2	34 17.5	20 10.3	5 2.6	11 5.7	5 2.6	4 2.1	7 3.6	1 0.5			194 100	472
	5	南洋南部 170°E 以西	0—10N 138—168E	73		7 3.2	21 9.6	27 12.3	37 16.9	59 26.9	16 7.3	18 8.2	13 5.9	6 2.7	2 0.9	3 1.4	8 3.7	1 0.5	1 0.5		219 100	297
か	2	ソロモン	0—13S 163—168E	48		11 12.4	13 14.6	15 16.9	8 9.0	20 22.5	6 6.7	3 3.4	4 4.5	4 4.5	2 2.2	1 1.1	1 1.1		1 1.1		89 100	287
	5	台灣東海	19—24N 124—130E	95			4 4.3	21 22.3	16 17.0	10 10.6	4 4.3	2 2.1	2 2.1	7 7.4	5 5.3	10 10.6	7 7.4	5 5.3	1 1.1		94 100	104

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
わ	1	南支那海	14°—15°N 113°—115°E	15							1 10.0										1 100	4
わ	1	バンダ フロレス	0—6S 124—129E	22				1 4.2	2 8.3	8 33.3	3 12.5	3 12.5	2 8.3	2 8.3		1 4.2	1 4.2		1 4.2		24 100	42
わ	1	ジヤワ沿海	12—14S 114—118E	13		1 7.7				3 23.1	4 30.8	4 30.8		1 7.7							13 100	47
わ	1	スマトラ西岸	4—10S 90—100E	26				1 2.2	1 2.2	16 35.6	12 26.7	5 11.1	1 2.2	3 6.7	4 8.9	1 2.2	1 2.2				45 100	145
わ	1	セイロン	4—7N 81—83E	14						5 38.5	5 38.5	2 15.4				1 7.7					13 100	94
魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
し	1	0°—15°S 140°W以東	1°—4°S 129°—128°W	25	尾数 %											1 100.0					1 100	17
し	1	ハワイ南西 5°N以南	1—9N 178—171W	23					1 50.0					1 50.0							2 100	8
し	1	南洋北部	10—11N 162—164E	16															1 10.0		1 100	1
ろ	2	南洋南部 170°E以東	6—10N 177—180E	43									1 33.3						2 66.6		3 100	6
ろ	1	南洋南部 170°E以西	0—5S 164—168E	16											1 50.0		1 50.0				2 100	4
か	2	ソロモン	0—13S 163—168E	48			1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0										5 100	20
か	2	台湾東海	20—23N 124—130E	38							1 25.0	1 25.0	1 25.0		1 25.0						4 100	7
わ	1	南支那海	14—15N 113—114E	15			1 25.0		1 25.0					1 25.0		1 25.0					4 100	5
わ	1	バンダ フロレス	0—6S 124—129E	22		3 9.7	7 22.6	6 19.4	3 9.7	3 9.7	1 3.2	2 6.5	2 6.5	1 3.2	1 3.2	1 3.2	1 3.2				31 100	39
わ	1	ジヤワ沿海	12—14S 114—118E	13		3 7.7	5 12.8	14 35.9	2 5.1	2 5.1	6 15.4	1 2.6	3 7.7		1 2.6	1 2.6			1 2.6		39 100	141
わ	1	スマトラ西岸	4—10S 90—100E	26			1 4.5		2 9.1	3 13.6	2 9.1	1 4.5	2 9.1	3 13.6	3 13.6	4 18.2		1 4.5			22 100	39

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
	2	セイロン	4—7N 81—83E	14			1 4.8	1 4.8		1 4.8		3 14.3	3 14.3	6 28.6	2 9.5		2 9.5		2 9.5		2 100	
まかじき	1	ハワイ南西 5°N 以南	1°—9°N 178°—171°W	23	尾数 %								1 100.0								1 100.0	1
	4	伊豆諸島	28—32N 139—149E	74						1 4.0	2 8.0	5 20.0		5 20.0	5 20.0	5 20.0	1 4.0	1 4.0			25 100	25
	5	西部太平洋	24—33N 134—155E	66					3 4.3	12 17.4	10 14.5	24 34.8	9 13.0	4 5.8	6 8.7	1 1.4					69 100	109
	4	南洋南部 170°E 以東	6—10N 172—178W	76									1 14.3	1 14.3	2 28.6	3 42.9					7 100	7
	4	南洋南部 170°E 以西	2—10N 153—167E	54		1 1.6	12 19.0	29 46.0	2 3.2	3 4.8	2 3.2	1 1.6		4 6.3	6 9.5	3 4.8					63 100	65
	2	ソロモン	0—13S 163—168E	48								1 50.0				1 50.0					2 100	2
	6	台灣東海	17—24N 124—130E	108			5 2.3	31 14.1	38 17.3	36 16.4	36 16.4	46 20.9	6 2.7	15 6.8	7 3.2						220 100.0	256
	1	バンダ フロレス	0—6S 124—129E	22								1 100.0									1 100.0	2
	1	スマトラ海岸	4—10S 90—100E	26								1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0						4 100.0	17
	1	セイロン	4—7N 81—83E	14							2 2.8	4 6.8	6 10.2	23 39.0	22 37.3	4 6.8					59 100	179

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
め	4	伊豆諸島	28°—32°N 139°—149°E	74	尾数 %			3 8.8	4 11.8	2 5.9	2 5.9	5 14.7	8 23.5		3 8.8		1 2.9	3 8.8	3 8.8	34 100	35
	4	西部太平洋	24—33N 134—149E	52				2 4.0	2 4.0	3 6.0	11 22.0	6 12.0	9 18.0	9 18.0	3 6.0	2 4.0		1 2.0	2 4.0	50 100	60
	1	南洋北部	10—11N 162—164E	16								1 100.0								1 100	1
	4	南洋南部 170°E 以東	6—10N 172E—178W	76		3 10.7	7 25.0		2 7.1	1 3.6	1 3.6	1 3.6	2 7.1	1 3.6	1 3.6	3 10.7	2 7.1	1 3.6	3 10.7	28 100	31

か	5	南洋南部 170°E 以西	1°—10°N 153°—167°E	72				1 5.6		4 22.2	1 5.6	3 16.7		1 5.6	3 16.7	5 27.8				18 100	21
	1	ソロモン	0—3S 166—168E	19									1 100.0							1 100	2
	7	台灣東海	17—24N 124—130E	132				2 4.4	3 6.7	9 20.0	7 15.6	8 17.8	6 13.3	3 6.7	6 13.3				1 2.2	45 100	45
じ	1	南支那海	14—15N 113—115E	15					1 11.1	1 11.1		5 55.6	2 22.2							9 100	9
	1	バンダ フロレス	0—6S 124—129E	22		6 42.9	2 14.3			1 7.1		3 21.4	1 7.1		1 7.1					14 100.0	14
き	1	ジャワ沿海	12—14S 114—118E	13				1 6.7		2 13.3	2 13.3	3 20.0	4 26.7	1 6.7	1 6.7		1 6.7			15 100	215
	1	スマトラ西岸	4—10S 90—100E	26							2 100.0									2 100.0	2
	1	セイロン	4—7N 81—83E	14						1 16.7		2 33.3	1 16.7		2 33.3					6 100	24

謹 賀 新 年 1958

株式会社
横濱銀行
三崎支店
支店長 松野恒夫
神奈川県三浦市三崎町花暮123
電話 800—4番

医薬品●船舶向薬品
一般医薬品
佐藤薬局
神奈川県三浦市三崎町
電話 花暮店 177
電話 諸磯店 610

特約店ホセン●フラスキン
船舶仕込薬品
ハツネ薬局
神奈川県三浦市三崎町入舟55
電話 462番

村松印刷株式會社
社長 村松節夫
本社 横須賀市大瀧町2の15
電話 横須賀254•663•957
工場 横浜市金澤区六浦町4033
電話金澤(7)9992•9993•9131

キハダマグロの鰭長の印度洋東西間の比較

永　井　三　夫 • 中　込　　淳

（神奈川県水産試験場）

過日、筆者等は印度洋のキハダマグロの体重を東西間で比較して、中、西部印度洋の魚体は同系統で東部印度洋はこれら海域と異つていると推察されると報告したが[1]、その後、鰭長について調査し、東西間で比較したところ、上記の結果を裏づける結果が出たので、こゝに報告する。

調査に当り、御指導、御鞭撻下さつた東京水産大学稲葉傳三郎先生、神奈川県庁水産調矢板開一課長、鮪漁業研究会伊藤順男専務理事、相模丸若生光一船長に対し、衷心より謝意を表する。

資　料　及　び　方　法

体長は尾叉長（吻端より尾叉底までの長さ）で表わし、単位は鰭長と共に cm で示した。印度洋東西を比較するために用いた中、東部印度洋の資料は、前者が 0°—4° S, 66°—70°E の海域で調査した平野、田川の報告[2]、後者がスマトラ島南西沖合からジャワ島南方沖合にかけて調査した鶴田の報告[3]より、前者 30, 後者 28 を任意抽出したものである。表中のFは差を検定する値、F (0.05) は 5% の危険率に於けるFの値である。

結　果　及　び　考　察

西、中、東部印度洋の体長に対する胸鰭長、臀鰭長、第 2 背鰭長の回帰は図 1, 表 1, に示す。

この各鰭、各海域の回帰を海域間で比較すると、表2からも解るように★1、胸鰭に於いては、中、西部印度洋は多少修正平均値★2に差があるが殆んど同傾向であり、それに対し、東部印度洋は著しく回帰係数★3が大きく、異つた傾向を示している。

臀鰭に於いては、中、西部印度洋は回帰係数が異つて居り、東部印度洋はこれら海域より稍修正平均値が大きい。しかし、胸鰭にみられるような顕著な差はみられない。

第 2 背鰭に於いては、東、西部印度洋間に、回帰係数に於いては稍、修正平均値に於いてはかなりの差がみられる。中部印度洋が測定されていないので、顕著な傾向は不明である。

表 1. キハダマグロの印度洋各海域に於ける体長に対する各鰭長の回帰方程式

測定部	海域	回帰方程式
胸鰭長	西部	$y = 17.549 \log x - 4.468$
	中部	$y = 21.129 \log x - 11.363$
	東部	$y = 45.409 \log x - 62.095$
臀鰭長	西部	$y = 0.00042550\, x^{2.3351}$
	中部	$y = 0.00001070\, x^{3.5492}$
	東部	$y = 0.00013701\, x^{2.5952}$
第2背鰭長	西部	$y = 0.0015480\, x^{2.0451}$
	東部	$y = 0.0001376\, x^{2.5763}$

X；体長　Y；各鰭長

表 2. キハダマグロの体長に対する各鰭長の回帰の海域間の差

比較要素	比較海域		修正平均値 F	修正平均値 F(0.05)	回帰係数 F	回帰係数 F(0.05)
胸鰭長	W	M	5.67	3.92	0.11	3.91
	M	E	3.96	4.02	5.66	4.03
	W	E	19.21	3.92	25.76	3.92
臀鰭長	W	M	1.79	3.89	11.04	3.91
	M	E	21.45	4.02	4.95	4.03
	W	E	31.34	3.91	1.56	3.89
第2背鰭長	W	E	34.54	3.91	4.47	3.91

W；西部印度洋、M；中部印度洋、E；東部印度洋

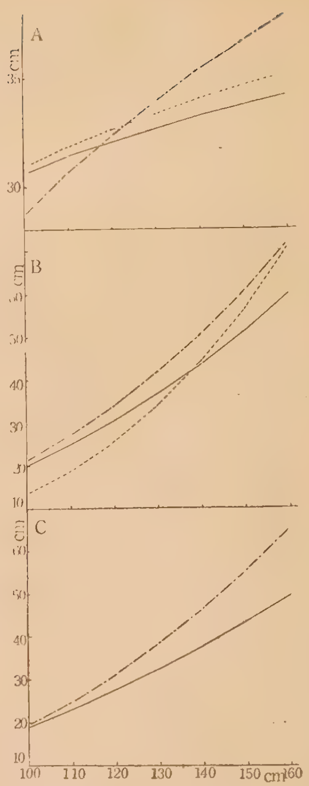


圖 1. キハダマグロの西、中、東部各印度洋の体長に対する各鰭長の回帰

A；胸　鰭 ———— 西部
B；臀　鰭 ········ 中部
C；才2背鰭 —·—·— 東部

以上の結果から、中、西部印度洋の魚体は近似して居り、東部印度洋の魚体は異つているものと推察される。

文　献

1) 永井三夫、中込　淳：鮪漁業　43, 1957.
2) 平野　修、田川昭治：水講研究報告　6 (1), 1956.
3) 鶴田三郎　：　〃　4 (3), 1955.

✱ 1. Fの値がF (0.05) より大きければその差は有意義であり、小さければ特に意味をもたない。
✱ 2. 平均体長に対する平均体重
✱ 3. 曲線の勾配 即ち 成長の程度

賀 春

1958

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造

装備・補修一式

七洋電機株式会社

取締役社長 満本英一

取締役 橋本清

取締役 長田孝

本社 東京都目黒区中目黒4丁目1315番地

電話目黒(712)2515・2526番

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場

急速・空氣凍結装置

冷房装置・冷凍機械器具

防熱装置・船舶冷凍冷蔵

設計 製作 施工

協同低温工業株式会社

本社 東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）

電話下谷(83)0996番

賀　春

1958

太洋無線が世界に誇る

各種　陸上用　航空機用　船舶用

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都澁谷区衆樂町48番地
電話澁谷(46)代表5283—9番

まぐろ延縄には漁材科學の生んだ
比重調製と樹脂加工を併用した延縄

アサヒテツクスロープを御使用下さい

特徴
① コールタール染不要
② 着色自由　③ 比重の適正
④ あらゆるロープの中で耐久耐摩耗力は一番すぐれております。

アサヒテツクスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野3978番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話 三浦957番

※ 説明資料は当鮪漁業研究会に御申込下さい ※

謹賀新年

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ　砕氷設備毎時50屯2基完備

（向ヶ崎・花暮岸壁）

凍結能力　日産　一七屯　　冷藏收容量　六〇〇屯
製氷能力　日産　五〇屯　　貯氷能力　五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正一

神奈川県三浦市三崎港　TEL（三浦）609・655番

神奈川縣立三崎水產高等學校長
全国水產高等学校實習船運營協議會理事長
全国水產高等学校長會水產部會理事長

鯉沼英吉

神奈川県三浦市三崎町小網代字城の内1108　電話（三浦）550

魚群探知機・音響測深機・強力発音機

株式会社　産研

本社工場　静岡縣沼津市千本鄉林一九〇七
電話（沼津）一六二六・四五四三番
東京営業所　東京都千代田區神田鍛冶町二ノ二
（今川橋ビル）
電話神田（25）五四四四番

船具と雑貨

磯部商店

三浦市三崎町仲崎
電話　953番

謹 賀 新 年

倉敷レイヨン株式會社

大阪市中央郵便局私書函才400号
大阪市北區梅田2番地（オ一生命ビル内）
電話大阪（36）1351番（大代表）

芦森工業株式会社

取締役社長 竹村七郎 （資本金2億圓）

本店 大阪市東淀川區元今里北通1ノ45
電話（37）1231番（代表）
支店 東京都中央区日本橋本町3ノ1
電話（24）2526・2857・7450

営業品目
漁業用 合成繊維ロープ・コード
消防用 ジェットホース
傳導用 綿ロープ
スピンドルテープ・バード

船舶代理店業
船舶食糧販売業

新大和公司

總經理 高 健 文

新嘉坡実登里街四号
電話 28.342・11.662番

市川漁網製造株式会社

代表取締役 市川 清

愛知県宝飯郡形原町大字形原字絹笠27

静岡縣鰹鮪漁業協同組合

組合長 久保田太郎吉
専務理事 滝口佐左衛門
常務理事 塩谷吉之助

静岡縣焼津市中234番地
電話焼津2424番

静岡縣鰹鮪漁業者協會

会長 齋藤三郎
専務理事 滝口佐左衛門
常務理事 塩谷吉之助

静岡縣焼津市中234番地
電話焼津2424番

三崎船長航海士協會

神奈川縣三浦市三崎町花暮
（生協ホール内）

强靱繊維興業株式會社

東京都中央區日本橋芳町2丁目2番地
電話茅場町（66）2596・4038番
工場 埼玉県久喜町久喜新1300番地
電話（久喜）50.134番

賀

邊文漁業部

邊見文雄

宮城縣石巻市湊御所裏55ノ5番地
電話（石巻）298番

……無線機なら定評ある……

JRC 無線機

東京・澁谷・千駄ケ谷
大阪・北・堂島中一
日本無線

春

=1958=

廻船魚問屋・罐詰・鰹節
遠洋漁業・貿易・餌料
シエル石油株式会社代理店

株式会社 松村友吉商店

静岡県焼津市築港
電話（ヤイズ）代表2141・2142・2143
罐詰工場 2924 受信略号 4431（ヤイズ10）

営業種目 内燃機關 起重機運搬機 ボイラータービン 代理販売
空氣壓縮機 電機諸機械 並に技術顧問 据付工事

太平物産株式會社

東京都中央區築地4ノ11 電話(54)1887（代表）—9 1880・8298 受信電略 ケウバシ「タイヘイブツサン

專売特許
PCC
石炭重油添加剤
ファインコーク
耐熱伸縮性充塡劑

日本添加劑工業株式會社

本社工場 東京都板橋區志村前野町884電話東京(96)1738・7737
営業所 東京都千代田區神田旭町2（大蕃ビル）電話東京(25)（代表）9136（直通）7910
大阪支店 大阪市西區江戸堀北通1 電話大阪(44)5551-5555
（富士産業株式会社 川崎市浜町1ノ36電話川崎(2)4403）

新しい鮪漁労技術が生れます。中層水温か水深と共に精密に刻々と見られる
— 水深温度計 = を装備下さい

海洋社

東京都港區芝虎ノ門八城南ビル 電話(59)5089番
製造所 株式会社 日吉電機製作所

有限会社 西松商店

代表取締役
湊勝雄
神奈川縣三浦市三崎港

社團法人

大日本水産会

東京都千代田區丸ノ内二ノ二（丸ビル內）
電話和田倉(20)1970—9

謹賀新年

鋼木船造修一般
五百屯船台一基
四百屯船台二基

三崎船舶工業株式会社

神奈川県三浦市三崎港
(電話 三浦 343 番)

緑星社のSV6型ラジオブイ
用途；鮪延縄・鮭鱒流網・捕鯨・底曳トロール
漁具流失防止 位置確認 操業時間短縮 等々

株式会社 **緑星社**

代表取締役 吉田内次

研究所 東京都中央区築地5の1(東京中央卸売市場内)
電話 (54) 2371
営業所 東京都中央区小田原町2の11 電話 (54) 7679番
函館出張所 函館市根崎町140番地

諸官廳船 ―遠洋漁船― 御用

創業五十年
最良の品質を誇る
最善のサービス

株式会社
安保商店

―電話三浦116番―

◁三崎港御入港の節は何卒
御引立の程御願い致します▷

日本漁網船具株式会社

本社 東京丸ビル六階
営業所 電話和田倉(20)代表一八四一
工場 下関、函館、大阪、戸畑、長崎
出張所 下関
油糧所 名古屋、仙台、釧路、小樽
川崎、女川、下関

謹賀新年

昭和三十三年元旦

日新興業株式会社

本　社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）
電話（23）1334・2351・9531番
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）
電話（57）9084・6810・6811番

大黒丸

山村利久

神奈川県三浦市三崎町花暮163
電話71番

全功丸

奥津政五郎

神奈川県三浦市三崎町花暮182
電話（三浦）6番

第三十振興丸

石渡春吉
石渡庄次

神奈川県三浦市三崎町西浜46
電話（三浦）760番

漁業・水産物売買・製氷
・冷蔵・冷凍・貿易

琉球水産株式会社

社長　長嶺彦昌

那覇市西新町2の7　電話（代表）1191番
東京連絡所　（株）興南社
東京都中央区京橋1の5中央企画ビル
電話（56）3023・3024番

輸出ヴイタミン油・罐詰・冷凍魚
遠洋漁業・各種魚類肝臓買付

湘南水産工業株式会社
東邦食品工業株式会社

神奈川県三浦市三崎町二町谷3806の4
電話三崎　370番・362番

三崎船舶工業株式会社

取締役社長　平井顕

本　社　東京都中央区西八丁堀2の10
電話（55）9611—5番
工　場　神奈川県三浦市三崎町向崎2446
電話三浦343・934番

福生水産株式会社

取締役社長　福島福一

神奈川県三浦市三崎町花暮121
電話252・837番

頌春

1958

横須賀市長

長野正義

三浦市長

川崎喜太郎

三崎沿岸漁業協同組合連合会

会長 宇田川勝次

神奈川県三浦市三崎町西野92
電話 30・211・408番
製函部
電話 579の甲

製氷・冷蔵・凍詰・餌料

三崎遠洋漁船製氷株式会社

取締役社長 四宮秀雄
取締役副社長 米沢六蔵

神奈川県三浦市三崎町六合2448
電話 356・372番

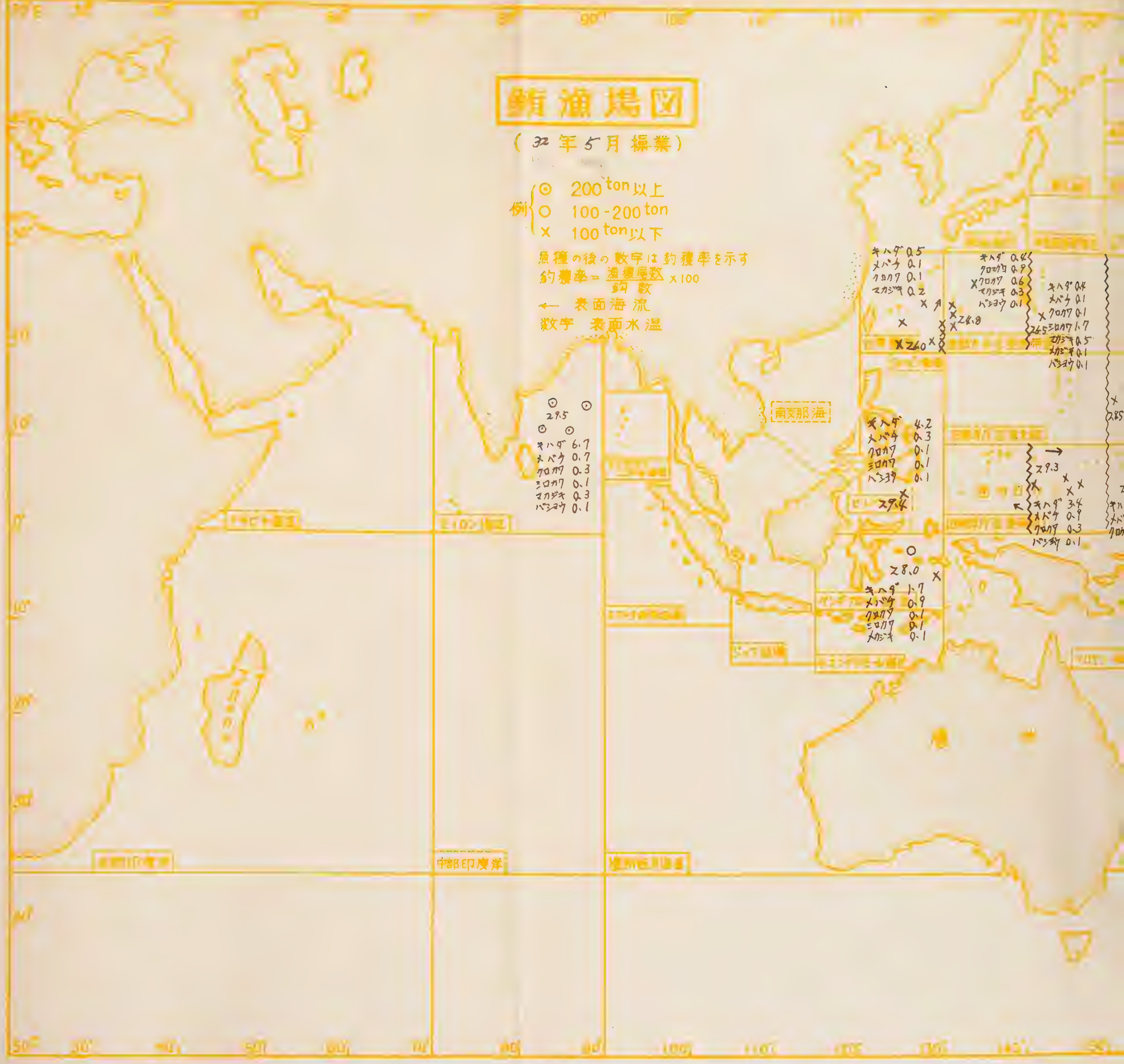
日魯漁業株式会社

本社 東京都千代田区丸ノ内2ノ2丸ビル4階
電話 和田倉 (20) 1851 (代表)

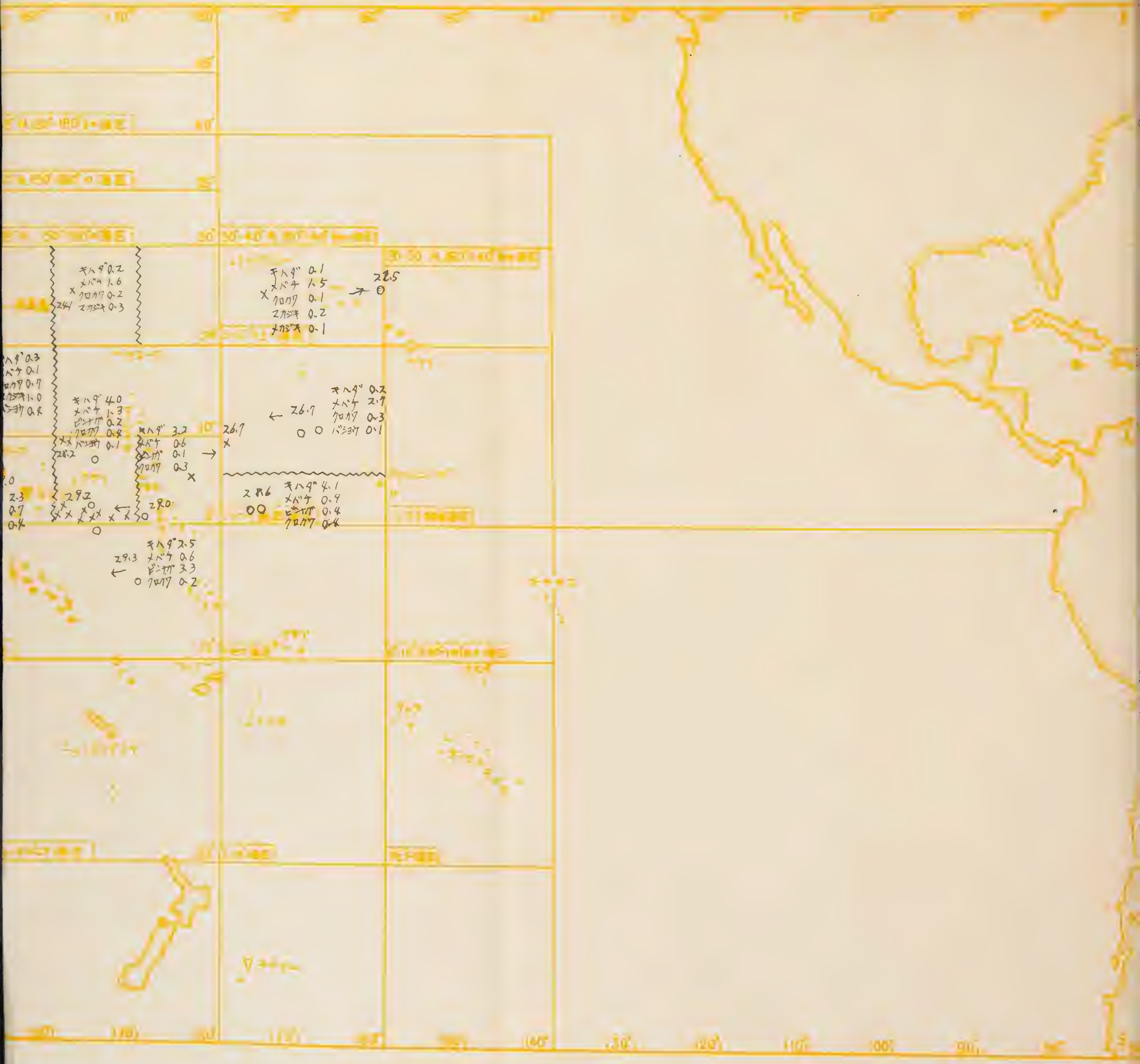
大洋漁業株式会社

三崎営業所 所長 長崎勝平

三崎営業所 神奈川県三崎市仲島190 電話三浦 (代表) 111・750—3
本社 東京都千代田区丸ノ内1ノ4新丸ビル6階
電話 千代田 (27) 代表 1041・1241



鮪漁場図
（32年5月操業）
例
⊙ 200ton以上
○ 100-200ton
× 100ton以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数／釣数×100
← 表面海流
数字 表面水温
南支那海
中部印度洋
29.5
キハダ 6.7
メバチ 0.7
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
マカジキ 0.3
バショウ 0.1
キハダ 0.5
メバチ 0.1
クロカワ 0.1
マカジキ 0.2
26.0
24.8
キハダ 0.4
クロマグロ 0.9
クロカワ 0.6
マカジキ 0.3
バショウ 0.1
キハダ 0.4
メバチ 0.1
クロカワ 0.1
26.5 シロカワ 1.7
マカジキ 0.5
メカジキ 0.1
バショウ 0.1
28.5
キハダ 4.2
メバチ 0.3
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
バショウ 0.1
29.4
29.3
キハダ 3.4
メバチ 0.9
クロカワ 0.3
バショウ 0.1
28.0
キハダ 1.7
メバチ 0.9
クロカワ 0.1
シロカワ 0.1
メカジキ 0.1



キハダ 0.2
メバチ 1.6
クロカワ 0.2
マカジキ 0.3
24.1
キハダ 0.1
メバチ 1.5
クロカワ 0.1
マカジキ 0.2
メカジキ 0.1
22.5
キハダ 0.3
メバチ 0.1
クロカワ 0.7
マカジキ 1.0
バショウ 0.8
キハダ 4.0
メバチ 1.3
ビンナガ 0.2
クロカワ 0.4
バショウ 0.1
28.2
キハダ 3.2
メバチ 0.6
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.3
26.7
キハダ 0.2
メバチ 2.7
クロカワ 0.3
バショウ 0.1
28.6
キハダ 4.1
メバチ 0.9
ビンナガ 0.4
クロカワ 0.4
29.2
29.0
29.3
キハダ 2.5
メバチ 0.6
ビンナガ 3.3
クロカワ 0.2
130°
120°
110°
100°
90°

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

（昭和32年5月現況）

三　崎　　鮪漁業研究会　（調査研究部）
神奈川県水産試験場　（資源部鮪担當）
東京，燒津　南海区水産研究所　（遠洋資源部）

1　調査の概要

昭和32年5月分として調査した鮪延縄船数は、三崎5，東京49，計54，で調査海区数は13，体長測定船数は17であつた。

2　漁況の概要

（キ　ハ　ダ）

ミッドウエー、ハワイ南西5°N以北は不漁、ハワイ南西5°N以南では活況を呈し、西部太平洋亜熱帯海区の150°E以西では好漁に向う傾向にあり、南洋北部150°—160°Eでは低調、南洋南部は好漁、ソロモン海区0°—5°Sでも好漁が続いているが、5°—10°Sは不漁である。台灣東海、バンダ•フロレス海区では不漁であるが、セレベス海区およびセイロン海区北方と大西洋の象牙海岸西南海区では、好漁を得ている。

（メ　バ　チ）

ミッドウエー海区およびハワイ南西海区5°N以北では、やゝ減少の傾向をみせているが、なお好漁で、ハワイ南西海区5°N以南も好漁で、4月より僅か増加している。西部太平洋亜熱帯海区は不漁期に入り、160—170°Eの海域のみ好漁、南洋北部は不漁、南洋南部各海域はおゝむね好漁で、170°—180°Eの海域のみ急減をみた。ソロモン海区では、5—10°Sの中部において好漁があり、バンダ•フロレス海区は不漁が続き、セイロン海区では好漁期を終つたようで、大西洋象牙海岸西南海区も不漁である。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ハワイ南西海区5°N以南のビンナガは僅かであるが、4月より増加し、西部太平洋では、いわゆる「冬ビン」の時期を完全に終つて、漁獲はみられず、ソロモン海区は盛漁期となつて、5—10°Sの海域で非常な好漁があつた。大西洋象牙海岸西南海区は漸次不漁となつている。

（ク　ロ　カ　ワ）

ハワイ南西海区では、好漁期に向つてやゝ増加の傾向があり、西部太平洋亜熱帯海区も來月頃から好漁が見込まれる。南洋北部は4月よりやゝ減じたが、なお好漁、南部は全般的に不漁であるが、170°E以西が以東より僅か高い。ソロモン海区の北部および中部では、昨年と同様に低調な漁況が続いている。セイロン海区は、2月から漸次

増加しているが、不漁である。大西洋象牙海岸西南海区は、メバチ、ビンナガと同様に不漁である。

（その他のカジキ類）

シロカワは、西部太平洋 140—150°Eの海域で好漁があつた他は、全般的に不漁。マカジキは南洋北部150—160°Eの海域で好漁であつた。

3 各海区の漁況

A. 赤道以北 180°—140°W漁場

（ミッドウエー海区、ハワイ南西海区）

ミッドウエー海区では、160°W線と175°W線附近で、それぞれ1隻、ハワイ南西海区では、10°N 附近で3隻、2°N 附近で2隻を調査した。ハワイ南西海区 5°N 以南については体長調査を実施出來なかつた。

（キ　ハ　ダ）

ミッドウエー海区のキハダは、本年1月以来、0.1 程度の貧漁を続けつゝあり、ハワイ南西海区は、夏の盛漁期に入つているが、5°N 以北の海域は、5月となつても増加せず、3月より低減している。しかし、5°N 以南は、4月の高率が続いて4.12の高率である。体長測定尾数は、ミッドウエー、ハワイ南西 5°N以北両海区とも少かつたが、ミッドウエー海区は 141—150cm および 170cm 以上にモードがあり、ハワイ南西 5°N 以北では、121—130cmにモードがあつて、4月と同様である。

（メ　バ　チ）

両海区とも好漁期末期で、ミッドウエーとハワイ南西 5°N 以北では、4月より減少してそれぞれ1.49, 2.67 を示して、なお高率であり、5°N 以南では、4月の低率からやゝ恢復して0.92 となつた。体長組成は、両海区とも同様で、4月と同形である。

（ビンナガ、クロカワ）

ビンナガは不漁であるが、ハワイ南西海区 5°N以南で4月 0.12 から5月 0.39 と激増、同海区のクロカワも4月0.14から5月0.40と増加、5°N以北のクロカワは 0.32であるが、高率期前である。体長組成は、ビンナガは、ミッドウエーで101—110cmに1尾を調査したにとゞまり、クロカワは、ミッドウエー海区では 211—220cm に山がありハワイ南西 5°N 以北の海域は4月の 5°N以南と同形である。

B. 北部太平洋漁場

（西部太平洋亜熱帯海区）

5月の調査船数は、この海区においても少く、130—135°Eの海域で4隻、小笠原近海1隻、南鳥島東方1隻、計6隻に過ぎず、魚体調査船は3隻にとゞまつた。

（キ　ハ　ダ）

西部太平洋亜熱帯海区の 130—140°Eおよび 140—150°Eの海域では、今年は2月頃が不漁期の中心であつたようで、4月から5月えかけて、漸次上昇に轉じ、5月 130—140°E では0.42, 140—150°E はと0.40 なり、160—170°Eは 0.19と低調である。魚体

は大型魚の増加がめだち、4月の111—120cmの体長階級範囲にあつた山が、131—140cmに移つている。

（メ　　バ　　チ）

この海区のメバチは、冬期の高率期を過ぎて、海区平均0.40の低率となつているが160—170°Eの海域で操業した1隻が、1.63の異常な高率を得ていることが注目される。体長組成は、4月と全く趣きを異にして大型魚が多く、100cm以下の小型魚は全く見られず、151—160cmに山がある。この傾向は、160—170°Eの海域に強くあらわれているようである。

（ビ　ン　ナ　ガ）

西部太平洋亜熱帯海区各海域のビンナガは、全く不漁となつた。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワは不漁で、160—170°Eの海域で僅かに0.17を得た程度にとゞまつたが、シロカワは平均釣獲率0.24, 140—150°Eの1隻が1.67の高率であつた。この海域では、マカジキも0.46と高く、130—140°E 0.34, 160—170°E 0.32と好漁であつた。クロカワの魚体は、大型から小型まで広い分布がみられ、組成の山は221—230cmにある。マカジキの魚体は、160—170°Eの海域に中大型、130—150°Eの海域に小中型がみられて、130—140°Eでは、船によつて釣獲率が著しく異つている。

C. 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海北部、同南部）

旧南洋庁沿海北部では、150°E線附近で操業した1隻のみを調査し、同南部では、西カロリンで4隻、170°E以西の東カロリン、マーシャルで15隻、170°E以東で2隻、計21隻を調査した。海流については、漁場圖參照。

（キ　　ハ　　ダ）

沿海北部150°Eのキハダは低率、南部は全般的に好漁高率で、150—160°Eの2隻2.33を除いては、3.23—4.00を示して、4月より増加している。体長組成は、4月と同形である。

（メ　　バ　　チ）

沿海北部は低率、南部では、160—170°Eが1.33で比較的高率、他の海域は、不漁期で好漁が得られない。体長組成は、4月とほゞ同様であるが、小型魚が増加している。

（ク　ロ　カ　ワ）

北部のクロカワは4月に激増し、5月は減じたが0.67となお高く、南部各海域は、0.3—0.4で、夏期まである程度の上昇が見込まれる。体長組成は、4月に比較して変化がない。

D. ソロモン、ニユーカレドニア海区漁場

（ソロモン海区）

ソロモン海区においては、165°Eの赤道附近の1隻と、エリス西方海域の1隻、計2隻を調査したが、魚体調査は実施出來なかつた。

（キ　ハ　ダ）

北部海域では、4月の高率からやゝ減少したが、4.42でなお高率である。中部の5—10°S海域は1.56と低率。平均釣獲率は2.49で、夏季に向つて活潑な漁況は望めない。

（メ　バ　チ）

5°S以北の北部海域では、4月より減じて0.43と低調、5—10°Sでは、0.66と比較的高い。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ソロモン海区は高率期に入り、平均釣獲率3.29に達して好漁で、5—10°Sの海域では、4.74の高率を得ているが、北部の1隻の操業では、0.30と極めて低率で、4月よりかえつて低下している。

（ク　ロ　カ　ワ）

海区平均0.19, 0—5°Sの海域は、0.33とやゝ高く、昨年秋期以来おゝむね同様の漁況が続いている。5—10°Sの海域は、0.12の低率である。

E. 西太平洋漁場

（台灣東海、セレベス海）

台灣東海区では、その南東部から沖縄南方海域えかけて8隻を調査、セレベス海における調査船は1隻で、魚体調査は、台灣東海の3隻について実施した。

（キ　ハ　ダ）

台灣東海においては、0.51を示して4月0.53と変らないが、船による釣獲率の差が甚だしい。セレベス海では4.15で、他の太平洋諸海区に比較して好漁がめだつている。台灣東海の体長組成は、4月と同様に組成の山は121—130cmにある。

（メ　バ　チ）

台灣東海0.05, セレベス海0.29で、両海区ともに低調である。体長組成は4月と同形で変らない。

（ク　ロ　カ　ワ）

台灣東海は先月とほゞ同率の0.11, この海区のクロカワは小型が多く、151—160cmに組成の山がみられる。

F. 東部印度洋漁場

（バンダ・フロレス海区）

5月の調査船はこの漁場においても少く、バンダ・フロレス海区2隻にとゞまつた。

（キ　ハ　ダ）

バンダ・フロレス海区では、4月3.07の高率から1.65に激減した。魚体は大型となり、体長組成の山も101—110cmから121—130cmに移つた。

（メ　バ　チ）

1月の不漁からやゝ恢復して4月は0.90となつたが、5月も同率で、これが昨年のように春から初夏にかけての上昇好漁を示すかどうかは不明である。体長組成は4月と同様である。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

全般的に不漁である。

G. 中西部印度洋漁場

（セイロン海区）

セイロン海区北東部で4隻を調査し、うち1隻について体長測定調査を実施した。その他の海区の調査船はない。

（キ　ハ　ダ）

セイロン海区においては、3月2.8, 4月4.1と上昇し、5月は更に6.70の高率となつて、操業各船とも平均した好漁を得ている。体長組成の山は141—150cmにあつて変らないが、101—110cmにも山があらわれ、小型魚が増加した。

（メ　バ　チ）

3,4月の1.1から低下して0.66の低率を示している。魚体は小型魚がみられず、141—150cmのみに組成の山がある。

（クロカワ、マカジキ）

セイロン海区のクロカワは、3月来漸増を続けて0.29となり、昨年同期の率にほゞ近くなつた。マカジキは、4月より半減して0.31となつている。クロカワ、マカジキとも、5月の体長測定尾数は少いが、クロカワは4月に比較して中大型が多く、マカジキはおゝむね同様の組成である。

H. 大 西 洋 漁 場

（象牙海岸西南海区）

5月の調査船は2隻で、1隻は4月に操業した黄金海岸沖を漁場とし、他の1隻は、西よりのブラジル海流域で操業している。体長測定調査は実施できなかつた。

（キ　ハ　ダ）

東方の南赤道流と赤道反流の収斂線附近海域と、西方のブラジル海流域とでは、漁況に著しい差がみられる。すなわち、東方漁場では、4月11.32の率から5月は更に17.44と増加したが、西方漁場では、まだ不漁期にあり、4.32と低い。

（メ　バ　チ）

メバチは両海域とも低率で、東方海域0.13, 西方海域0.29を示し、好漁期を過ぎたものと思われるが、東方海域は、4月の0.15より増加している。

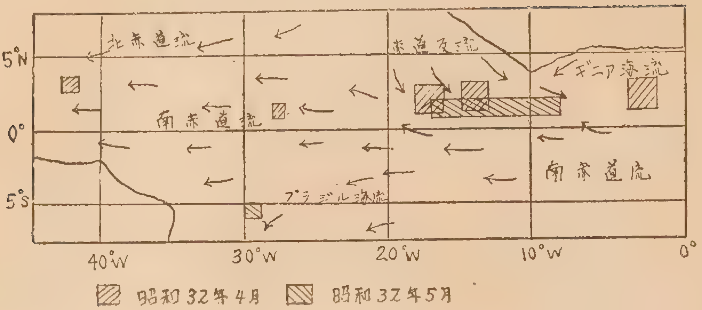
（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガにおいては、キハダ、メバチと逆に、ブラジル海流域がやゝ高率で2.47, 黄金海岸沖は1.37と低く、ともに不漁期にあるようである。

（ク　ロ　カ　ワ）

メバチ、ビンナガと同様に、クロカワも不漁が続き、東方海域は0.42の率で4月0.24より僅か上昇、西方海域は0.23の低率であつた。

図 1. 大西洋象牙海岸西南海区漁場



賀

春

＝1958＝

太平洋鮪鰹漁船保険組合

組合長 大浜喜一郎　常務理事 林　信雄
副組合長 寺本正市　同　古谷喜一
東京都港区芝浜松町3の2　電話 神田(43)1679

神奈川県漁船保険組合

組合長理事 矢板開一　外役職員一同
横浜市中区日本大通り1の1（神奈川縣廳水産課内）
電話 本局 (2) 4921番

神奈川県漁港協会

会長 鈴木十郎
神奈川縣横浜市中区日本大通り 神奈川縣水産課内

神奈川県漁業無線協会

会長 長崎勝平
主事 川崎淳一郎
神奈川縣三浦市三崎町向ケ崎　電話三浦118番

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま きはだ	めばち
ミッドウエー	23°— 26°N 176°—158°W	2	21.9 24.2		46	15,395	61,235	尾数 %	31 0.05	911 1.49
ハワイ南西 (5°N 以北)	9— 11N 178—166W	3	26.4 27.3		56	20,370	92,515		181 0.20	2472 2.67
ハワイ南西 (5°N 以南)	1— 3N 179E—170W	2	28.2 28.9		38	14,763	59,052		2433 4.12	545 0.92
西部太平洋	22— 30N 129—165E	6	22.5 27.1		105	27,592	113,361		417 0.37	458 0.40
南洋北部	14— 15N 150—153E	1	27.2 29.0		10	2,550	10,200		27 0.26	6 0.06
南洋南部 (170°E以東)	0— 10N 168—180E	2	27.1 29.2		34	11,226	53,710		1734 3.23	323 0.60
南洋南部 (170°E以西)	2S— 9N 137—173E	19	27.6 29.8		297	96,723	408,393		15061 3.69	4773 1.17
ソロモン	0— 11S 163—178E	2	29.0 29.6		44	14,980	64,095		1597 2.49	377 0.59
台灣東海	20— 26N 123—130E	8	24.6 29.9		150	38,445	153,970		783 0.51	73 0.05
セレベス	3— 7N 123—125E	1	29.0 29.8		14	3,860	17,390		722 4.15	50 0.29
バンダ フロレス	2— 8S 124—131E	2	26.9 29.5		34	11,270	56,350		928 1.65	508 0.90
セイロン	5— 16N 78— 90E	4	28.2 31.1		123	51,245	211,030		14130 6.70	1390 0.66
大西洋 (象牙海岸西南)	6S— 2N 8— 30W	2	27.3 28.7		27	9,370	42,600		4070 9.55	81 0.19
合計	13	54			978	317,789	1,343,901		42114 3.13	11967 0.89

(昭和32年5月操業分)

(別表 1)

ぐ	ろ		か	じ	き			かつを	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
1			58	1	134	55	1		85	47	1324	鮫未調査隻数0
			0.09		0.22	0.09			0.14	0.08	2.16	体長測定隻数2
13			299	4	9	10	44		8		3040	3
0.01			0.32		0.01	0.01	0.05		0.01		3.30	1
230			238	11		9			6		3472	2
0.39			0.40	0.02		0.02			0.01		5.88	0
9	61		102	274	402	66	102		352	257	2495	0
0.01	0.05		0.09	0.24	0.35	0.06	0.09		0.31	0.23	2.20	1
1			68	1	105	3	39	12	129	124	515	
			0.67		1.03	0.03	0.38	0.12	1.26	1.22	5.05	
31			170	9	2	5					2274	2
0.06			0.32	0.02		0.01					4.23	1
426			1498	54	10	20	323	67	52	332	22616	16
0.10			0.37	0.01			0.08	0.02	0.01	0.08	5.54	5
2110	1		119	9	2	1	19	24	40	99	4398	1
3.29			0.19	0.01			0.03	0.04	0.06	0.15	6.86	0
14	156		163	4	359	37	303	11	446	337	2686	0
0.01	0.10		0.11		0.23	0.02	0.20	0.01	0.29	0.22	1.74	3
			15	10	3	3	24			38	865	
			0.09	0.06	0.02	0.02	0.14			0.22	4.97	
			49	47	4	31	21				1588	2
			0.09	0.08		0.06	0.04				2.82	2
			602	157	652	48	195	8	5	5	17192	3
			0.29	0.07	0.31	0.02	0.09				8.15	1
865			132		6	20	88	10	9		5281	2
2.03			0.31		0.01	0.05	0.21	0.02	0.02		12.40	0
3700	218		3513	581	1688	308	1159	132	1132	1239	67746	31
0.28	0.02		0.26	0.04	0.13	0.02	0.09	0.01	0.08	0.09	5.04	16

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年5月操業分）

（別表2）

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	170 cm 以上	計	漁獲尾数
き	2	ミッドウエー	23°—26°N 176°—158°W	46	尾数						2	1	1	4	5	8	4		5	30	31
					%						6.7	3.3	3.3	13.3	16.7	26.7	13.3		16.7	100	
	1	ハワイ南西 5°N以北	10—11N 170—160W	14	尾数								3	16	2	2				23	27
					%								13.0	69.6	8.7	8.7				100	
	3	西部太平洋	22—30N 130—165E	44	尾数						2	14	11	18	21	6	7	1	7	87	168
					%						2.3	16.1	12.6	20.7	24.1	6.9	8.0	1.1	8.0	100	
はだ	1	南洋南部 170°E以東	0—3N 168—173E	24	尾数							19	163	92	14	5				293	1559
					%							6.5	55.6	31.4	4.8	1.7				100	
	5	南洋南部 170°E以西	1S—9N 144—169E	67	尾数				11	36	52	82	227	137	32	10				587	3647
					%				1.9	6.1	8.9	14.0	38.7	23.3	5.5	1.7				100	
	3	台灣東海	20—24N 123—130E	58	尾数						8	26	30	69	32	24	5			194	415
					%						4.1	13.4	15.5	35.6	16.5	12.4	2.6			100.0	
	1	バンダ フロレス	5—8S 126—131E	21	尾数						1	16	18	44	20	25	2			126	502
					%						0.8	12.7	14.3	34.9	15.9	19.8	1.6			100	
	1	セイロン	10—16N 81—85E	14	尾数								16	26	44	63	11			160	2061
					%								10.0	16.2	27.5	39.4	6.9			100	

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回數		60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾数
めば	2	ミッドウエー	23°—26°N 176—158W	46	尾數					1	5	8	11	12	47	82	27	18	1	212	911
					%					0.5	2.4	3.8	5.2	5.7	22.2	38.7	12.7	8.5	0.5	100	
	1	ハワイ南西 5°N以北	10—11N 170—160W	14	尾數						1	6	12	12	12	14	10	7	1	75	736
					%						1.3	8.0	16.0	16.0	16.0	18.7	13.3	9.3	1.3	100	
	3	西部太平洋	22—30N 130—165E	44	尾數						6	11	16	15	15	34	14	7	2	120	447
					%						5.0	9.2	13.3	12.5	12.5	28.3	11.7	5.8	1.7	100	
	1	南洋南部 170°E以東	0—3N 168—173E	24	尾數			3	1	11	11	5	7	8	16	18		1		81	187
					%			3.7	1.2	13.6	13.6	6.2	8.6	9.9	19.8	22.2		1.2		100	
	5	南洋南部 170°E以西	1S—9N 144—164E	67	尾數		1	3	8	31	94	42	37	60	57	25	3	2		363	1182
					%		0.3	0.8	2.2	8.5	25.9	11.6	10.2	16.5	15.7	6.9	0.8	0.6		100	

ち	3	台灣東海	20°—24°N 123°—130°E	58				2 4.8	3 7.1	11 26.2	7 16.7	5 11.9	2 4.8	8 19.0	3 7.1	1 2.4				42 100	43
	1	バンダ フロレス	5—8S 126—131E	21					3 1.9	5 3.2	9 5.7	28 17.7	27 17.1	53 33.5	20 12.7	10 6.3		2 1.3	1 0.6	158 100	215
	1	セイロン	10—16N 81—85E	14									8 14.8	15 27.8	19 35.2	12 22.2				54 100	189

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數		40cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121cm以上					計	漁獲尾數
びんなが	1	ミッドウエー	25°—26°N 176°—173°W	18	尾数 %								1 100							1 100	1
	1	西部太平洋	25—27N 160—165E	17								2 100								2 100	2
	2	南洋南部 170°E以西	1S—3N 164—169E	27							4 9.1	38 86.4	2 4.5							44 100	156
	2	台灣東海	20—24N 123—130E	36								3 50.0	2 33.3	1 16.7						6 100	6

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261cm以上	計	漁獲尾数
くろかわ	2	ミッドウエー	23°—26°N 176°—158°W	46	尾数 %								2 5.9	7 20.6	8 23.5	5 14.7	8 23.5	2 5.9	2 5.9		34 100	58
	1	ハワイ南西 5°N以北	10—11N 170—166W	14			2 5.1	2 5.1	3 7.7	14 35.9	3 7.7	3 7.7	4 10.3	1 2.6		1 2.6	2 5.1	4 10.3			39 100	62
	3	西部太平洋	22—30N 130—165E	44		3 4.8	2 3.2	3 4.8	1 1.6	3 4.8	1 1.6	1 1.6	3 4.8	5 8.1	7 11.3	13 21.0	9 14.5	6 9.7	2 3.2	3 4.8	62 100	66
	1	南洋南部 170°E以東	0—3N 168—173E	24			2 2.9	5 7.2	10 14.5	18 26.1	5 7.2	2 2.9	7 10.1	7 10.1	6 8.7		1 1.4	1 1.4	2 2.9	3 4.3	69 100	109
	5	南洋南部 170°E以西	1S—9N 144—164E	67		2 0.8	22 9.1	34 14.1	29 12.0	53 22.0	16 6.6	19 7.9	28 11.6	16 6.6	10 4.1	3 1.2	5 2.1		3 1.2	1 0.4	241 100	374
	3	台湾東海	20—24N 123—130E	58			5 5.1	17 17.2	31 31.3	17 17.2	8 8.1	2 2.0	4 4.0	1 1.0	8 8.1	4 4.0	2 2.0				99 100	99
	1	バンダ フロレス	5—8S 126—131E	21						3 37.5	1 12.5		1 12.5	1 12.5				1 12.5		1 12.5	8 100	16
	1	セイロン	10—16N 81—85E	14							4 23.5	3 17.6	2 11.8	1 5.9	2 11.8	4 23.5	1 5.9				17 100	112

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
しろかわ	1	西部太平洋	25°—27°N 160°—165°E	17								1 100								1 100	1
	1	南洋南部 170°E 以東	0—3N 168—173E	24		1 33.3						1 33.3			1 33.3					3 100	7
	4	南洋南部 170°E 以西	1S—8N 144—164E	53		2 15.4	3 23.1	3 23.1		1 7.7	1 7.7	1 7.7				1 7.7	1 7.7			13 100	19
	1	台灣東海	20—23N 123—127E	18					1 100.0											1 100	1
	1	バンダ フロレス	5—8S 126—131E	21		9 33.3	7 25.9	2 7.4	2 7.4	2 7.4	2 7.4	1 3.1		1 3.7		1 3.7				27 100	47
	1	セイロン	10—16N 81—85E	14							1 100.0									1 100	24

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
まかじき	2	ミッドウエー	23°—26°N 176°—158°W	46			1 0.8	7 5.3	26 19.7	1 0.8	12 9.1	16 12.1	33 25.0	25 18.9	7 5.3	3 2.3	1 0.8			132 100	134
	1	ハワイ南西 5° N 以北	10—11N 170—166W	14					1 25.0		1 25.0	2 50.0								4 100	4
	3	西部太平洋	22—30N 130—165E	44		4 1.9	16 7.6	27 12.8	44 20.9	26 12.3	35 16.6	13 6.2	13 6.2	24 11.4	4 1.9	3 1.4	2 0.9			211 100	211
	1	南洋南部 170°E 以東	0—3N 168—173E	24										1 100						1 100	2
	1	南洋南部 170°E 以西	1S—3N 164—166E	14			1 100													1 100	2
	3	台灣東海	20—24N 123—130E	58			6 5.0	10 8.4	16 13.4	15 12.6	33 27.7	6 5.0	20 16.8	11 9.2	2 1.7					119 100	145
	1	バンダ フロレス	5—8S 126—131E	21							1 100.0									1 100	1
	1	セイロン	10—16N 81—85E	14						2 8.3	1 16.7		3 25.0	3 25.0	3 25.0					12 100	35

魚種	測定船数	漁場	操業海域	測定船数		80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201cm以上	計	漁獲尾数
め	2	ミッドウエー	23°— 26°N 176°—158°W	46	尾数	1			2	3	1	6	4	2	4	3	3	4	22	55	55
					%	1.8			3.6	5.5	1.8	10.9	7.3	3.6	7.3	5.5	5.5	7.3	40.0	100	
	1	ハワイ南西 5°N 以北	10— 11N 170—166W	14								1		1	2					4	4
												25.0		25.0	50.0					100	
か	3	西部太平洋	22— 30N 130—165E	44		1	6		3	2	2	5	1	1	3	2	7	2	14	49	52
						2.0	12.2		6.1	4.1	4.1	10.2	2.0	2.0	6.1	4.1	14.3	4.1	28.6	100	
	1	南洋南部 170°E 以東	0— 3N 168—173E	24				1			2		2							5	5
								20.0			40.0		40.0							100	
じ	1	南洋南部 170°E 以西	3— 8N 144—146E	16							1		1							2	4
											50.0		50.0							100	
き	3	台灣東海	20— 24N 123—130E	58				1	1	1	2	4	3	1	2					15	16
								6.7	6.7	6.7	13.3	26.7	20.0	6.7	13.3					100	
	1	バンダ フロレス	5— 8S 126—131E	21					1	1	1	2	1				2			8	17
									12.5	12.5	12.5	25.0	12.5				25.0			100	

謹 賀 新 年　1958

神港式浮標燈製作販売
浮標燈用蓄電池
各種蓄電池　販売修理充電
株式会社
神港漁機製作所
神奈川県三浦市三崎町六合 3341
電話 273・472番

船舶食糧品販売
三崎海洋商事株会式社
本社 神奈川県三浦市三崎町花暮142 電話 45番
支店 東京都中央区月島西河岸通10丁目8 電話 深川(64)0.856

相原寫眞製版所
相原四郎
横浜市南区弘明寺190番地
電話長者町(3)116番

有限会社
山久洋紙店
横須賀市衣笠榮町1の65番地
電話(横須賀)776番

謹 賀 新 年

三菱可変ピッチプロペラ装置

三菱日本重工業株式会社
横浜造船所
所長 室 谷 宗 則

横浜市西区緑町3丁目4番地の2 電話(2) 2931・7231番

高級カメラ

現像 焼付 引伸

在庫豊富
外国製高級機
国産優秀機
その他カメラ交換月賦販売

は一日仕上の優秀な技術と設備を誇る当店へ

アラヰ写真機店

【防衛大学校指定】

本店 横須賀市本町1ノ1(ロータリー角)電話600・2672番
営業所 三浦市三崎町上橋 電話653番
売店 防衛大学校学生P.X.

漁船には専門メーカーの穂高の漁業無線機を

★ 最新の技術と堅牢・高性能を誇る

500W
250W
150W
120W
75W
50W
35W
25W
10W

穂高通信工業株式会社

本社	東京都新宿区下落合1—6	TEL (95) 2595・6219
大阪営業所	大阪市西区京町堀上通2—21協栄ビル	TEL (44) 5792・4109
東京工場	東京都新宿区下落合1—6	TEL (95) 2595・6219
長野工場	長野県南安曇郡穂高町2579	TEL (穂高) 61
代理店	小樽・函館・八戸・気仙沼・石巻・塩釜・小名浜・那珂湊・銚子・三崎・清水・焼津・室戸・下関	

頌春

昭和三十三年元旦

日本水産株式会社

鮪事業部鮪事業課

東京都千代田区丸ノ内2ノ3（東京ビル内）
電　話（23）3541・3551番

東都水産株式会社

東京都中央区築地5丁目1番地
電　話（54）1171・2171番

城ケ島遠洋漁業生産組合

組合長　安　達　三　郎

神奈川県三浦市三崎町城ケ島429番地

豊　州　丸

三　木　久　雄

神奈川県三浦市三崎町入母53番地

出光興産株式会社
三崎出張所

神奈川県三浦市三崎町海南55番地
電　話（三浦）432番

船具漁具
海洋調査測器・舶用計機械
理化学機器・漁業資材

日本民衆産業株式会社三崎出張所

所長　本　田　秀　雄

神奈川県三浦市三崎町仲崎86
電　話（三浦）503番

本　社　東京都中央区日本橋室町3の3番地
麻綱会館内
電話日本橋（24）0782番 5615番

下関営業所　下関市西細江町（市民館内）

横須賀市浦賀港
遠洋漁業　高知丸

上　原　虎　松

電　話（浦賀）150番

有限会社 **高知屋造船所**

電　話（浦賀）216・472番

全国輸出工芸展通産大臣賞受賞

特許
- 金（ゴールデンベイト）餌
- ビニール製擬似餌
- 誘導漁具
- 鰹鮪漁業釣漁具
- 漁具漁法考案研究

製造販売

山下漁業科学研究所
山下釣漁具製作所

所長 **山下楠太郎**

営業所　神奈川県三浦市三崎町花暮141
研究所 工場　神奈川県三浦市三崎町仲崎78
電　話（三浦）349番

Translation in Reprint File

Information on the tuna resources of the equatorial Pacific

太平洋赤道付近、140°～110°W付近のマグロ資源の一知見

中　　込　　淳　　NAKAGOME, Jun

（神奈川県水産試験場）

この漁場は昭和29年8月以降毎年秋季から冬季にかけて数隻の船によって操業されて来たが，最近この漁場にでかける船が非常に増え，それと共にこの漁場の資源分布，及び漁況についての知見が必要となって来た．著者は漁況資料収集のため各船をまわっているが，この点の究明を要望する声が非常に多いので，特に時間をさいて検討してみた．資料が少く，今後修正される可能性のあることは言を俟たないが，操業上の一指針ともなればと思い，あえてここに報告する．

調査，発表に当り，御指導，御鞭撻下さった本場永井三夫場長，又，資料を提供下さった36隻の船長，漁撈長に対し，衷心より謝意を表する．

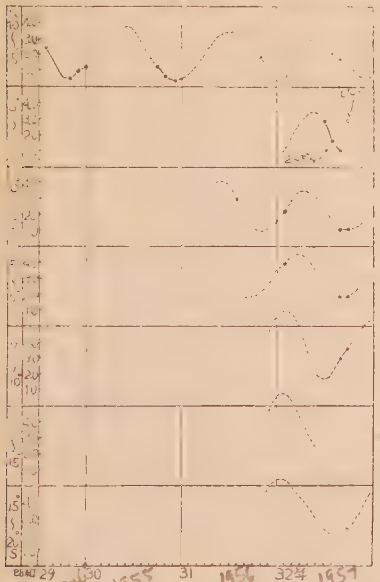


図1　キハダの緯度毎の漁況

マグロの分布は海流に関係があるが，太平洋赤道付近の海流が緯度に略平行に走っているため，分布は緯度による差が大きく，経度による差が小さい．そこで，太平洋赤道付近，140°～110°Wの海域を緯度5°毎に分け，その各海区各魚種の漁況を図に示すと1～4図の点及び実線のようになる．

しかして，経度間による分布の差は小さいので，これら諸海区が西方の同緯度の海区と同様の季節変化をたどるものと仮定して，既知の記録をもとに，漁況を推定すると，図1～4の点線のようになる．

しかし，この漁場の昭和32年8～10月*の各魚種の漁獲は，西方の漁場に比し．表1に示すように，海域によりかなり複雑な差がみられる．しかして，この漁場の同時期の海流をみると，西方の漁場と異り，図5に示す如く，赤道反流と南赤道流の潮目が不明瞭で，その付近の海流は渦状を呈したりして，複雑となっている．そこで，小範囲における海域乃至海流域と漁獲との関係を検討しなければならない．

次に，8～10月のこの点についての知り得た二，三の現象について報告する．

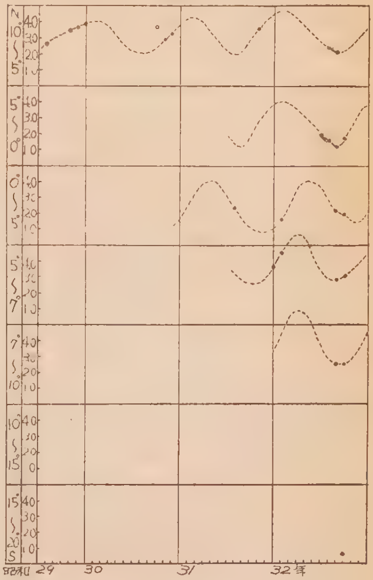


図2　メバチの緯度毎の漁況

* 毎年操業され，かつ最も多くの資料があって海域間の差を比較することができるので，この時期を用いた．

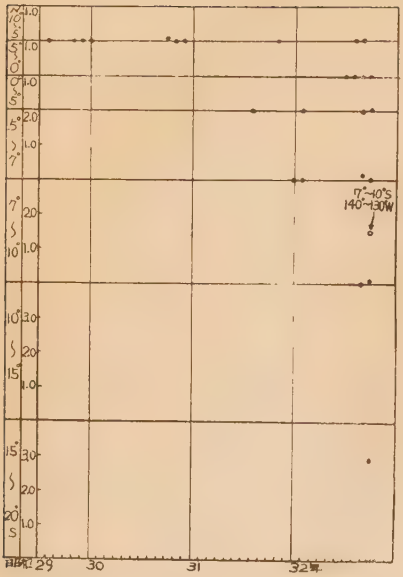


図 3 ビンチヨウの緯度毎の漁況

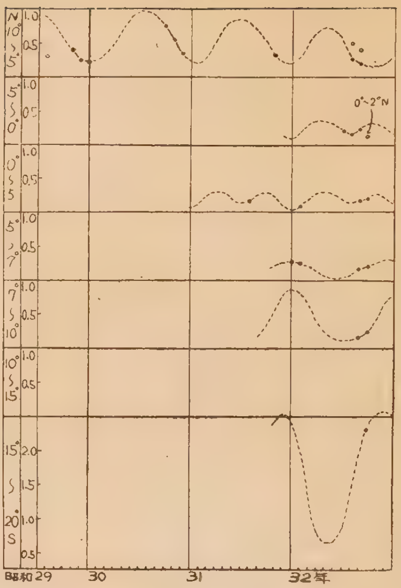


図 4 クロカワの緯度毎の漁況

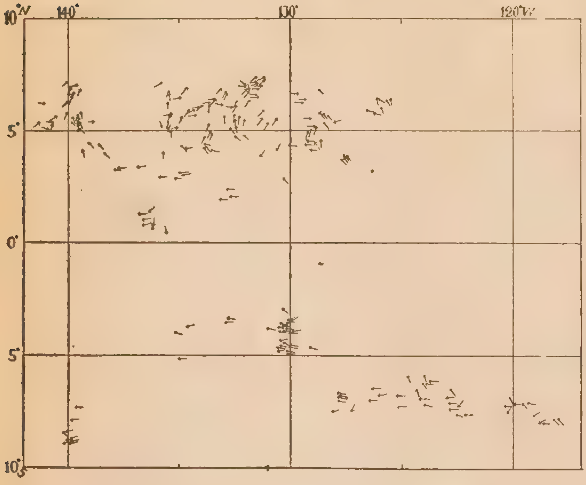


図 5 太平洋赤道付近，140°～120°W付近海域の 8 ～10 月の海流

1 ）赤道反流と南赤道流の潮境の 5° ～ 6° Nの水帯のキハダは，道反流，南赤道流の両海流域より，漁獲が著しく少い．

2 ） 0° ～ 3° Nの水帯のキハダは．その南北両水帯より，漁獲が高いように思われる（更に検討する余地はある）．

3 ）南赤道流域の潮目（10° S付近—須田：鮪漁業 34， P． 11）付近の 7°～10° Sの水帯のキハダは，7° S以北の海域より，特に漁獲が高い．但し10°～18° Sの海域は資料がないので解らない．

4 ）赤道以北の海域のメバチの漁獲は概して北よりに高気味である．

5 ）又，5°N以北の海域のメバチの漁獲は東よりに高い．

6 ）赤道以南の海域のメバチの漁獲は，概して，5°～7° Sの水帯が最も高く，次が7°～10° S，次が0°～5° Sである．10°～18° Sは不明．

7 ）西方の漁場と同様，ビンチョウの漁獲が 10° 以南に高いことは推定されるが，130°W 以西の海域では，10 月に7° S付近まで北上している．

8 ）昭和32年 8 ，9 月の 5° N以北のクロカワの漁獲は，例年に比し著しく低いが（図 4 ），海域によってかなりの差がある（表 1 ）．緯度， 経度に関係なくその変動要因は解らないが， 0.4～0.5 の釣獲率になり得る可能性はある．

6 ）西方の漁場のクロカワは，5° N以北が 8 ～ 9 月に好漁，5° S以南が 3 月頃好漁となるが， この漁場は， 5° N以北が夏季，5° S以南は冬季に好漁となり，稍ずれている感がある．

従って，図 1 ～ 4 の漁況をもとに， 上述した小範囲の海域と漁獲との関係を考慮に入れて， 参考とする必要がある．

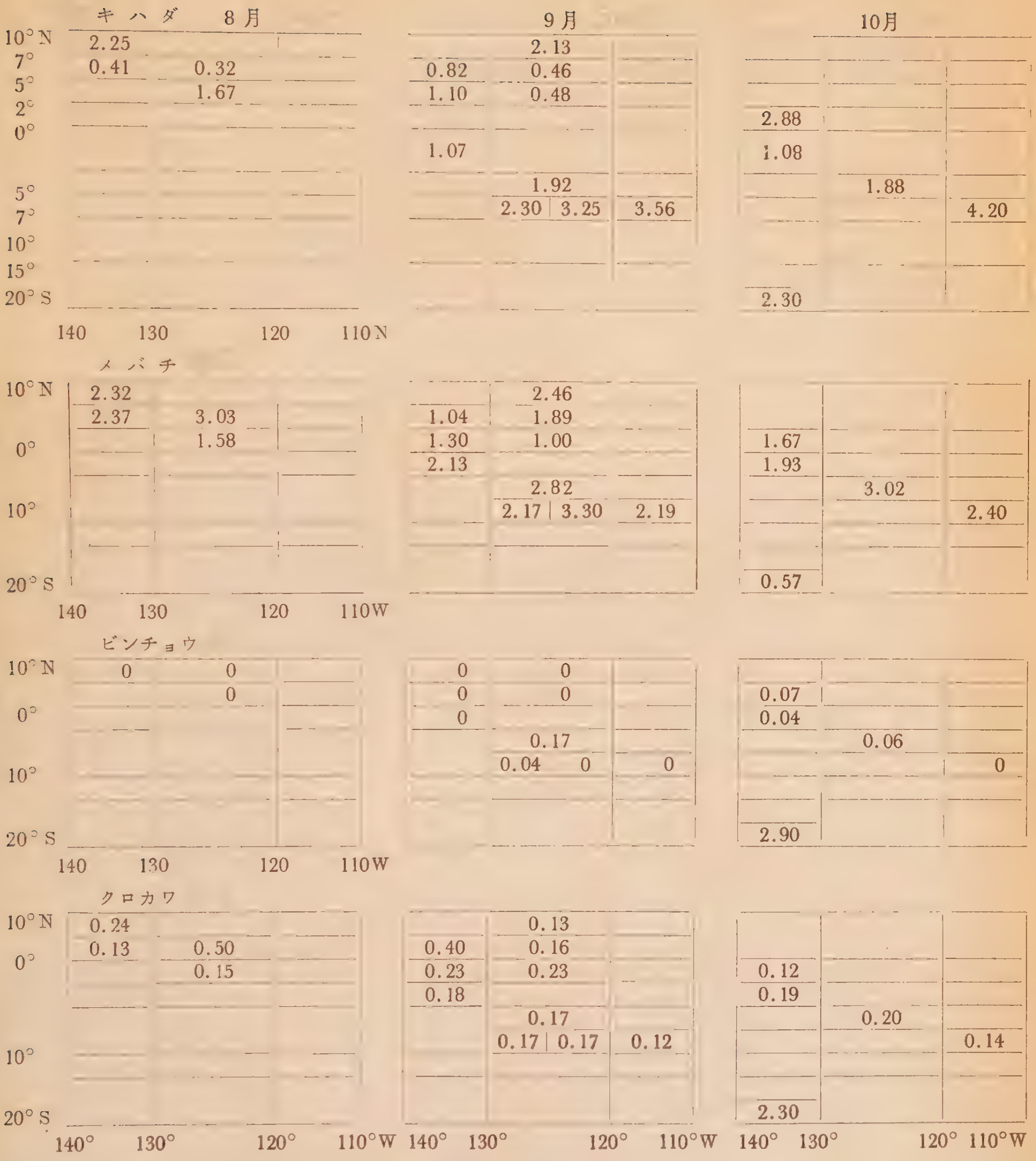


表 1　赤道付近，140°～110°W付近の緯度，経度別釣獲率

猶，東方ガラパゴス諸島周辺（10° N～50 S）で 1 月から 3 月にかけて操業したスコフィールド号の報告（神水試漁撈部：鮪漁業 41，P.29）より，その釣獲率を，参考までに表 2 に示す．

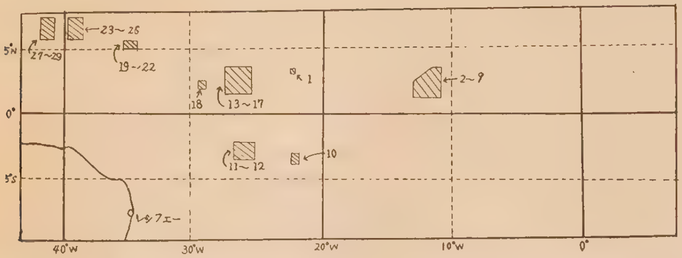
表　2

魚　　種	キ ハ ダ	メ バ チ	*マカジキ	サ　　メ	そ の 他
釣　獲　率	1.07	2.23	1.10	3.33	0.27

* バショウを含む

相模丸による大西洋鮪漁場開発事業第五次航海調査表

神奈川県水産試験場漁撈係



相模丸操業海域図
（数字は操業回数を示す）

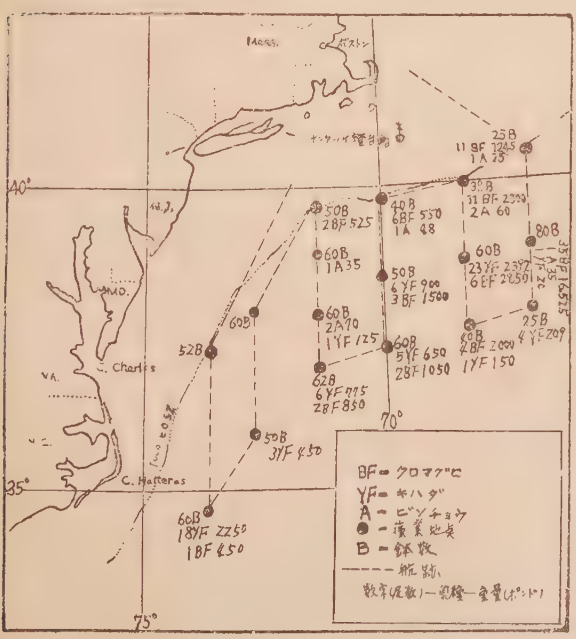
月日	回数	位置	気象海象 天候	気圧	気温	風向力	水温	波浪	漁獲物 キハダ	メバチ	ビンナガ	クロマグロ	カジキ	合計	漁獲高	縄数	備考
9—18	1	03—49 N 22—31 W	c	1,009	26.7	S S E 2	27.2	2	27	10	4	2	4	47	1,000	400	8月31日イタリー國レグホン出港
9—22	2	01—55 N 10—55 W	c	1,007	25.7	S 3	26.4	2	132	5	6	0	6	149	2,300	380	
9—24	3	02—19 N 11—13 W	bc	1,008	25.8	S/W 2	26.4	2	90	5	14	1	2	112	1,700	380	
9—25	4	02—19 N 11—15 W	c	1,007	26.0	S W 3	26.5	2	145	11	17	1	11	185	3,000	380	
9—26	5	03—33 N 11—10 W	b	1,010	26.7	S W 2	26.5	2	62	2	2	6	0	72	1,400	380	
9—28	6	02—36 N 13—00 W	b	1,009	25.0	S 3	27.8	3	127	7	9	2	2	147	2,300	400	
9—29	7	02—42 N 13—50 W	b	1,009	25.3	S 2	26.8	2	45	5	20	0	4	74	1,100	400	
9—30	8	02—22 N 13—25 W	b	1,007	26.9	S 3	27.3	3	86	2	27	7	0	122	2,000	400	
10—1	9	02—10 N 12—10 W	bc	1,008	25.0	S 2	27.4	2	14	1	14	0	3	32	500	400	揚後南よりに適水
10—5	10	04—00 S 21—40 W	b	1,007	23.6	SE/E 3	25.6	3	31	4	53	5	12	105	1,200	400	
10—7	11	03—32 S 26—28 W	bc	1,009	24.5	E/S 2	25.9	2	5	7	81	8	4	105	1,300	400	
10—8	12	03—15 S 27—18 W	b	1,010	25.0	E S E 3	26.0	3	20	6	88	3	7	124	1,400	400	
10—11	13	03—03 N 26—34 W	bc	1,009	26.0	S/E 3	27.9	3	53	2	8	4	5	72	1,400	400	
10—12	14	03—09 N 26—12 W	b	1,008	26.0	S S E 3	27.1	3	51	8	8	26	13	106	2,700	400	
10—13	15	02—58 N 26—12 W	bc	1,009	26.3	S S E 3	17.8	3	41	15	15	12	8	91	1,700	400	
10—14	16	02—57 N 27—04 W	bc	1,007	26.5	S S E 2	29.0	2	23	4	14	8	6	55	1,000	380	
10—16	17	02—32 N 26—32 W	b	1,008	25.7	S S E 3	27.5	3	71	—	14	3	7	95	1,800	400	
10—17	18	02—34 N 29—02 W	b	1,008	26.0	S 2	27.5	2	33	3	28	16	6	86	1,600	400	揚後より帰途コースにて調査
10—19	19	05—09 N 35—18 W	c	1,006	26.3	S S E 2	29.0	3	252	3	75	6	0	336	4,500	400	
10—20	20	04—37 N 35—09 W	bc	1,006	26.0	S S E 3	28.0	3	210	2	43	5	0	260	3,500	400	21日都合で入れず

月日	回数	位置	気象海象 天候	気圧	気温	風向力	水温	波浪	漁獲物 キハダ	メバチ	ビンナガ	クロマグロ	カジキ	合計	漁獲高	縄数	備考
10—22	21	05—10N 35—20W	bc	1,006	26.5	SSE 3	28.9	3	136	10	14	3	0	163	2,000	360	
10—23	22	05—20N 35—37W	bc	1,006	26.8	SSE 3	28.8	2	146	7	5	6	0	164	2,500	400	潮異状に早く操業困難西よりに適水
10—25	23	06—46N 39—15W	c	1,009	26.4	SE 2	27.8	2	199	2	0	6	0	207	2,900	400	
10—26	24	07—12N 39—15W	bc	1,008	29.0	S 1	30.4	1	178	14	20	9	1	222	2,700	400	
10—28	25	06—41N 39—35W	bc	1,005	28.5	S/W 1	28.2	2	133	13	12	1	9	168	1,800	400	
10—29	26	06—34N 39—55W	bc	1,006	28.5	S 2	28.5	2	130	11	8	8	0	157	2,000	420	
10—31	27	06—34N 42—02W	bc	1,007	27.0	SSE 3	28.5	3	213	28	25	8	0	274	3,500	400	
11—1	28	06—34N 41—55W	c	1,006	27.8	SE 2	28.5	2	99	2	11	1	12	125	1,600	360	
11—2	29	06—06N 41—57W	c	1,006	28.0	E/N 1	28.5	1	209	9	7	2	0	227	3,000	400	調査一日切揚げパナマ國クリストバル港に向う
									2961	198	642	159	122	4082	59,400		
															総鉢数	11,440	

デラウエア号（米国）鮪延縄試験に成功する

—北大西洋漁場調査並びに漁具試験—

（コンマアシヤル　フイシエリース　レビュー　1957年8月号より）



米国州漁業試験船デラウエア号は西部太平洋沖合海面に於ける6月6日より7月5日に亘る第2次鮪延縄試験航海にて18トン（4860〆）の漁獲成果を挙げた．

この航海にてデラウエア号はジオージスバンク（漁礁）の南方及び南西68,000浬に亘り17回の操業を行った．

この延縄試験調査は北部大西洋に於ける鮪の分布状態を解明すべく計画されたもので3月15日より4月15日に亘る延縄試験調査に引きつづき行われたものである．

ジオージスバンク（漁礁）南方140浬の地点に於ては80鉢を使用してクロマグロ16,500ポンド（1980〆）の好漁獲を収めた．ナンタケット南方135浬の地点及びケープ・ハットラス東南東85浬の地点との二点に於てはキハダ1屯(270〆）以上を漁獲した．この航海に於ては大マグロによる数回の漁具のモツレたこと以外は漁具流失等はなかった．鮫喰の被害は予想外に少かった．

この航海の漁獲は鮪159　38,039ポンド（4,565〆）種類は次の通りである．クロマグロ83　29,845ポンド（3,581〆）ビンチョウ　8　273ポンド（3.2〆）キハダ　68　7,921ポンド（950〆）である．

6月に於ける沖合海面の鮪類の分布状態については，

北寄りの地点に於ては小マグロの魚群にビンチョウを混えており湾流による暖い水の影響を受けた南寄りの地点に於てはキハダ混りであることを示している.

3月15日より4月12日間の航海に比較して魚はより大型のクロマグロ及びキハダであることはこの時期に於ては北寄りの漁場程顕著に現われている.

1957年3月中にガルフストリームで挙げた好漁獲中には300～350ポンド（36〆～42〆）の大さのクロマグロがあるが，こんな鮪は今回の航海に於ては見られないものであった．〝ランセットフィシュ〟（カジキの類？）は3月の航海時よりも少かった.

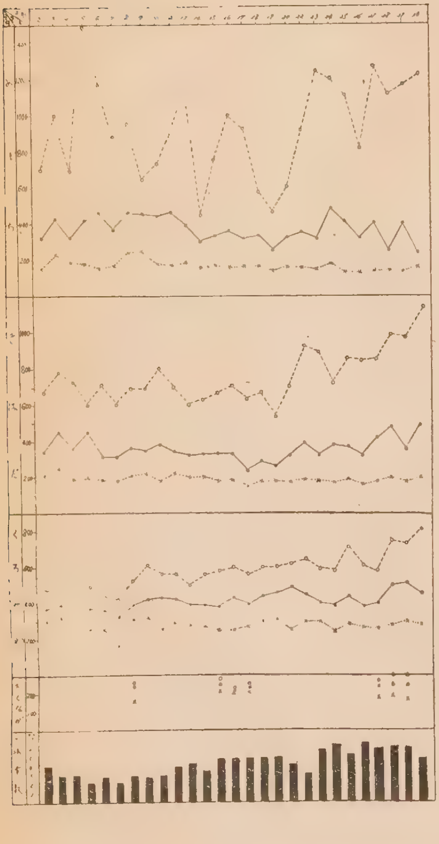
鮪以外の魚種は次の通りである．コンモンドルヒン（イルカの類）45，白カワ6，沖カマス5，Lancet Fish ランセットフィシュ3，シロザメ32，ヨシキリ14，ヒラガシラ3であった.

ウットホール海洋研究所の協力によって表層水温の測定と水温測定機による測定が各操業地点に於て行われた.

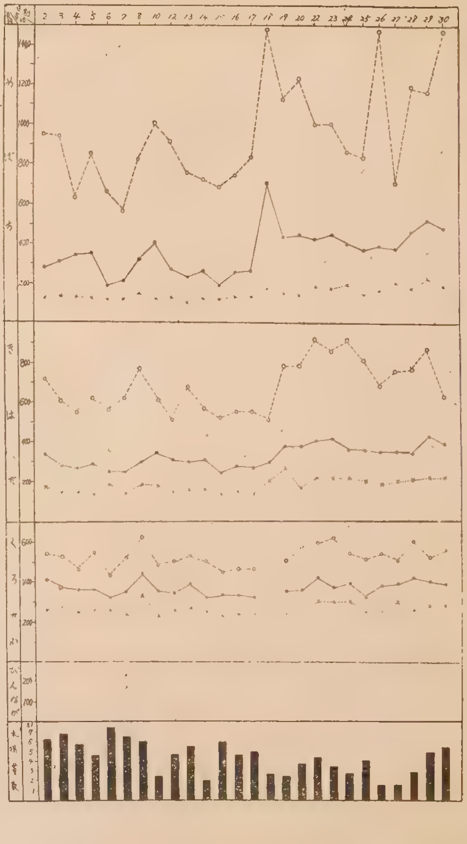
各操業地点に於て夜間操業が行われると共に鮪類の形態調査並びに生活史調査とが行われた．ビンチョウ1　クロマグロ5　イルカ10　シロカワ1　合計17尾の魚に6月21日より7月5日の間に研究所製の標識がつけられ放流された.

本航海の始めと終りに近く天候不良に悩まされたがデラウエア号は7月15日に揚縄機修理，餌料補給（冷凍ニシン）及び冷凍機修理のためイーストボストンに帰港した.

（鮪漁業研究会　伊藤抄訳）



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十二年十二月



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十二年十一月

業界メモ

1957年12月

12月3日　磐城丸再び南太平洋漁場へ

福島県指導船磐城丸（475トン）はマアケサス群島海域が遠洋マグロ漁場として有望なところから3日再び同海域に向け出港した.

（水経）

12月4日　太平洋の鮪資源調査

南海区水産研究所では，かねてからマグロの資源調査を実施してきたが，このほど全国一斉に印度太平両洋にわたる各種マグロ，カジキ類について標識放流調査を実施することになり各関係方面，漁業者に協力方を要望している.　（日本水産）

4日　有望な豪州マグロ

西南太平洋フイジー諸島近海に内地のホンマグロによくにた豪州マグロを狙って出漁した漁船が好成績を挙げ，次々と帰港してくるがこの程第5日光丸（304トン）は豪州マグロ4万2千貫を漁獲して焼津に帰港約1万貫を水揚したが高値2,500円安値160円平均465円で南方マグロとしては同港始って以来の高値を示した．魚体は5貫～20貫，肉質は内地のホンマグロとそっくりで脂がのり美味で高級刺身用として出荷された.　（日本水産）

4日　鰹鮪会館の落成

鰹鮪漁連は東京都千代田区平河町に鰹鮪会館を建設中であったが，完成したのでこのほど関係者を招いて落成式を行った.（日本水産）

4日　タルタウ島漁業基地問題

奥原水産庁長官は記者会見でタルタウ島漁業施設問題について予算的には大蔵省との折衝にまだ入っていないが予算をたてると共に，この問題についての世論の喚起を促したい.

特にカツオマグロ漁業者にとっては大きな福祉であるということを業者は認識してほしい．つまり日本の東南アジア開発施設をどう進めていくかという大きな問題の中の一つとして検討推進してゆきたいと.　（日本水産）

12月6日　米国マグロ船協会長の三崎漁港視察

来日中の米国マグロ船協会々長マズルカ同調査部長チャップマンの両氏は6日三崎魚市場の入札状況を視察したが，これはいままで米国ではマグロは船主協会と加工業者との一括契約で取引されていたが独禁法にふれるので入札取引きとしたため日本市場の入札方法の実情視察と最近日本マグロの輸入が年々増加して生産コストの高い米国業者のマグロの売行きが悪くこのため今後米国内の消費量（現在約30万トン）のうち米国65%，日本35%と日本の輸入量をきめることに賛成して貰うために来日したと.

（神奈川）

12月13日　対米マクロ輸出に危機

アメリカの国税委員会では11日より日本の冷凍鮪，缶詰鮪の輸入に関する公聴会を開いている。これは日本鮪の輸入制限を立法化しようとするもので上院財政委員会へ報告される．この公聴会で輸入制限の方へ傾けば今後日本鮪の対米輸出は現在の3千5百万ドルから約2千万ドル程度に制限されるので日本のマグロ業界にとっては大打撃である．水産庁としてはこの公聴会の結論をまって国内マグロ輸出対策を講ずることのようである.　（水経）

12月25日　好成績で第1昭和丸帰る

焼津市昭和漁業ＫＫ所属第1昭和丸(1,077トン）は去る8月清水を出港して印度洋セイシエル諸島海域で20トンのキャッチャー2隻と活躍中であったが，4ヵ月ぶりに総水揚14万5千貫の冷凍マグロを積んで東京港に帰港した．実動操業62日，投縄数（3隻）186回，主なる漁獲魚類はキハダとメバチであった.　（水経）

12月30日　相模丸大西洋漁場より帰る

神奈川県指導船，相模丸（200トン）は昨年9月横浜を出港して大西洋の鮪漁場調査に向ったが30日正午1年3ヵ月振りに横浜に帰港した．この間同船は，ブラジル国レシヘエ港に2回イタリア国ベニス，レグホン両港に各1回寄港して漁獲物の水揚を行い，最後航海の漁獲物約5万貫を東京港に水揚したが，合計5航海の総漁獲高は約30万貫であった.

鮪類標識放流について

1. 昭和32年12月1日より12月31日迄に放流実施の報告のあった船数は1隻（2尾）である.

放流実施船名及び実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
七洋	E0012 E0014	32.12.3～ 32.12.8	1°—4°S 159°—160°E	めばち（2）

謹賀新年

各種船舶並に漁船新造修理
炭礦機械一般鉄構製品其の他製作

三菱造船株式会社
下関造船所

下関市大字彦島1130番地の10
電話代表 下関(2)4221番

事代漁業株式会社
取締役社長 寺本正市

本社 神奈川県三浦市三崎町花暮147
電話 三浦 278・56番

お願い

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

◎鮪類水揚地調査報告昭和30年度版は昭和28年度、昭和29年度分と共に鮪漁業教書として関係の方々には是非座右に備付けられるようお薦め致します。御希望の向は代金800円（送料を含む）を添えて本会宛御申込下さい。

鮪漁業
1958年1月号

昭和33年1月10日印刷
昭和33年1月10日発行
監修 神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人 菅野進
神奈川県三浦市 神奈川県水産試験場内
発行所 鮪漁業研究会
（振替貯金口座横浜 1472）

謹 賀 新 年

—1958—

財団法人
日本輸出冷凍水産物検査協会
会長 木梨信彦
理事長 富永久雄

東京都千代田区霞ケ関3の3（鋼鈑ビル）
電話東京(59)4604・7680・9028・9029番

日本冷凍食品輸出組合

東京都千代田区霞ケ関3の3（鋼鈑ビル）
電話東京(59)2865・8652・8653番

五洋水産株式会社

本　　社　東京都千代田区丸ノ内2の29(丸ビル6階)
三崎営業所　神奈川県三浦市三崎町二町谷
石巻出張所　石巻市門脇75

日本輸出冷凍鮪販売株式会社

東京都千代田区霞ケ関3の3（鋼鈑ビル）
電話東京(59)8586～7・8848～9番

マルタカソーセージ・ツナハム
鮪漁業
丸高水産株式会社

本　　社　東京都中央区小田原町2の4
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町
工　　場　〃　通矢4番地

柳下漁業株式会社
社長 柳下弥三郎

神奈川県三浦市三崎町日の出41
電話三浦446番

順光漁業株式会社
代表取締役 水野平吉

神奈川県三浦市三崎町花暮146
電話（三浦）77番

鎌田漁業株式会社

神奈川県三浦市三崎町花暮17
電話（三浦）530番

昭和三十三年 元旦

謹賀新年

東貿易株式会社

代表取締役　石関自助

東京都千代田区丸ノ内2の2（丸ビル）
電話（20）4539番

大都魚類株式会社

代表取締役　林　誠次

本　社　東京都中央区築地5の1
電話築地（55）9013番
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町仲崎190

報国水産株式会社

社長　江島静男

東京都中央区小田原町1の1
電話（54）1941―3番

三信汽船株式会社

本社　東京都千代田区丸ノ内1の6の1
海上ビル新館7階
電話（28）4516―8番

日本無線代理店

三崎日本無線

神奈川県三浦市三崎町日の出
電話三浦635の乙

鮪延縄・撚　糸・製造販売
浦賀製氷冷凍工場営業取扱
三馬ゴム株式会社特約店

神奈川県漁業協同組合連合会三崎出張所

神奈川県三浦市三崎町花暮157
電話430番

ガムレン・ケミカル・カンパニー
日本総代理店

株式会社　山水商店

東京都中央区日本橋通り2の6
電話千代田（27）6380―2・6026

共和丸漁業生産組合

神奈川県三浦市三崎町六合2254
電話（三浦）351番乙

船舶向薬品・一般医薬
有名化粧品・カメラ・D.P.E

イワノ薬局

神奈川県三浦市三崎町
本店　日の出　電話249番
支店　花暮　電話61番

横浜ゴム製造株式会社
藤倉ゴム工業株式会社　代理店
出港用品一式

ヨコハマ屋

三浦市三崎港　電話三浦824番

謹賀新年

昭和三十三年 元旦

下田船渠株式会社

取締役社長 沢村久右衛門
専務取締役 沢村正三

静岡県賀茂郡下田町 1187
電話下田（代表）1,001番
東京事務所 東京都港区芝田村町4の13
電話 芝（43）2539・8655

日本冷蔵株式会社

東京都中央区湊町3の8
電話 築地(55)代表 2101番 1121番

株式会社

安部貿易商会

東京都中央区銀座東6の7
電話 東京（54）1458・1459番

株式会社 東京商社

本社 東京都千代田区丸ノ内丸ビル749号
電話和田倉(20) 2451・3969番
支店 静岡県清水市万世町2の34
電話 清水 1963・3749番
工場 静岡県清水市八千代町2の26
電話 1901番

ヤマタ漁業株式会社

取締役社長 佐久間竹松

千葉県安房郡千倉町白子1670
電話 千歳 3・9・4 1番

双葉理工株式会社

東京都中野区多田町42
電話 中野（38）5592番

三崎漁業資材株式会社

神奈川県三浦市三崎町西野 7
電話 三浦 449番

日本石油カルテックス特約店

太平洋石油販売株式会社

本社 東京都中央区西八丁堀3の5の5
電話 築地（55）2181—3
三崎油槽所 神奈川県三浦市三崎町通矢
電話 三浦 750—4（呼）

三崎港遠洋漁船船員消費生活協同組合

組合長 寺島幸太郎
専務理事 林藤一郎

神奈川県三浦市三崎町花暮 181
電話 868・875番

室戸遠洋鰹鮪漁業船主組合

高知県安芸郡室戸町

賀 正

1958

大物業会

会長 石宮 北川宮蔵
副会長 古川 古川正雄
同 紐古支店 扇浦良男

事務所 東京都中央区築地5の1
東京都中央卸売市場内
電話東京(54)1171—9 2171—9 内線294

三崎魚類株式会社
三崎町魚商協同組合

神奈川県三浦市三崎町西野62
電話三浦 市外専用 570—4 市内専用 670—4
事務専用 575—6 製函部用 675

神奈川県鰹鮪漁業協同組合販売所

組合長 寺本正市

神奈川県三浦市三崎港
(電話三浦860～864番

アクチブラダー輸入発売元

第一物産株式会社

東京都港区芝田村町1の2
電話東京(27)代表0361 (28)1831

宝幸水産株式会社

本社 東京都中央区新富町3の2
三崎営業所 神奈川県三浦市三崎町宮城5

謹賀新年

—1958—

孝勇丸

孝勇丸漁業生産組合

佐藤孝吉

神奈川県三浦市三崎町白石3,936
電話三浦771番

株式会社

山口県漁業公社

社長　天野郡治

本　社　下関市大字大和町30
電話　下関(2)6058番
三崎事業所　神奈川県三浦市三崎町花暮141
電話(三浦)732の甲

かくじう水産株式会社

社長　畠山泰蔵

本社　宮城県気仙沼市魚町
電話　117番
出張所　神奈川県三浦市三崎町宮城
電話　4番

大成水産株式会社

神奈川県三浦市三崎町仲崎142
電話　三浦　379番

薩州丸

伊藤漁業株式会社

社長　伊藤由五郎

神奈川県三浦市三崎町仲崎85
電話　825・445番

小島大黒丸

小島政夫

神奈川県三浦市三崎町仲崎161
電話　203番

光栄丸

金沢徳尾

神奈川県三浦市三崎町花暮132
電話　321・836番

拓洋水産株式会社

神奈川県三浦市三崎町花暮
電話　三浦　8番

謹賀新年

昭和三十三年元旦

焼津遠洋漁業協同組合

静岡県焼津市中230

用宗遠洋漁業株式会社

静岡市用宗1318

神奈川県鰹鮪漁業者協会

会長 菅野 進
主事 水戸邦雄

神奈川県三浦市三崎町 電話375番

福吉丸

吉田清八

神奈川県三浦市三崎町東岡
電話三浦709番

焼津漁業協同組合

静岡県焼津市中234番地
電話(代表)3111番・4191番

昭和漁業株式会社

取締役社長 服部亀吉
専務取締役 岡田清吉
取締役漁業部長 新井喜一郎

本社 静岡県焼津市城の腰115の1
電話(代表)2131番

清寿漁業株式会社

静岡県清水市港町3の3

崎吉丸

崎島理平

神奈川県三浦市三崎町
電話653番

謹賀新年

1958

荻布漁業部 **荻布貞雄** 富山県高岡市片原横町1087 電話 657 番	福吉丸 **鈴木俊平** 宮城県本吉郡唐桑町字鮪立137 電話 唐桑 3 番
社団法人 **漁船協会** 理事長 木村嘉次 東京都千代田区丸ノ内（丸ビル603号） 電話 和田倉（20）4588番	船舶食糧品 株式会社 **星野商店** 神奈川県三崎港 電話235
三崎無線通信士協会 会長 塩瀬厚 神奈川県三浦市三崎町花暮（生協ホール内） 電話三浦875番	割烹旅館 **温泉亭** 神奈川県三浦市三崎町日ノ出 電話 三浦 19

㊟ 住吉漁業株式会社

社長 四宮秀雄

神奈川県三浦市三崎町入舟62
電話 三浦 603・835番

神奈川県石油業協同組合
三崎支部

株式会社 阿部喜商店	出光興産株式会社三崎出張所
合名会社 香山石油店	株式会社 亀井商店三崎支店
共栄石油株式会社	株式会社 吉沢石油店
東亜石油株式会社三崎営業所	湊商事株式会社三崎出張所
三崎石油株式会社	日本民衆産業株式会社 三崎出張所
下竹石油	

謹賀新年

画期的『漁業用語英和辞典』刊行さる!!

今回漁業用語英和辞典の刊行を企図し，去る7月本誌第41号より11月第45号に亘り広告して予約註文を求めましたところ，今日までに数百部に及ぶ御申込みを受けましたことは当会として誠に感謝にたえないところで厚く御礼申しあげます．その節広告致しました通り11月上旬刊行を目標として鋭意努力中でありましたが，執筆者の一部に練習船による乗船出張が命ぜられた関係上その担当部門の原稿の完成に長時日を要し，10月下旬漸くできあがった始末で，又この期間中に色々と社会情勢の変化に伴ない新語の追加解説の訂正，補足なども必要となり，更に内容の充実を期したため見出し語，頁数ともに増加し益々刊行が遷延され且つ値上げのやむなきに至りましたが，愈々近日刊行の運びとなりました．この点悪しからず御諒承下さるようお願い致します．早々に予約註文下されました各位に対し甚だ御迷惑をおかけした点深くお詫び申しあげますとともに，本辞典の一層の御利用の程切にお願い申しあげて年頭の御挨拶と致します．（漁業用語英和辞典刊行会代表者　鶴田三郎）

〔目　次〕
推薦の辞，発刊の辞
専門別執筆者，校閲者
参考文献
漁業用語英和辞典
附録
1. 時事及び特殊用語
2. インドネシヤ及びフィリピンの漁業用語その他
和文索引
表（度量衡，外国の通貨名及び円換算）

〔語数，頁数，価格，刊行日〕

見出し語	本文	5850語
	附録	510語
頁数	本文	230頁
	附録	30頁
	索引他約	130頁
価格（1部送料共）		450円
刊行期日		2月上旬

発行所　下関市吉見永田本町1944番地
農林省水産講習所内
漁業用語英和辞典刊行会
（振替口座　下関　11120番）

神奈川県水産試験場
調査部、漁労部
一同
神奈川県三浦市三崎町向崎
電話338・118番

鮪漁業研究会
会長　萱野進
副会長　四宮秀雄
専務理事　伊藤順男
神奈川県三浦市三崎町向崎
電話338・118番

謹賀新年

倉敷ビニロン

漁万クレモナ

鮪延縄・ロープ・漁網

クレモナ鮪延縄　神奈川水試江の島丸

くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町2の4

▷最高の技術══永い信用◁

営業種目

VHF新聞通信社用
ビーコン装置
超短波通信機
極超短波通信機
高級無線用測定器
放送施設一式
船舶用無線機
ラジオピーター
高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

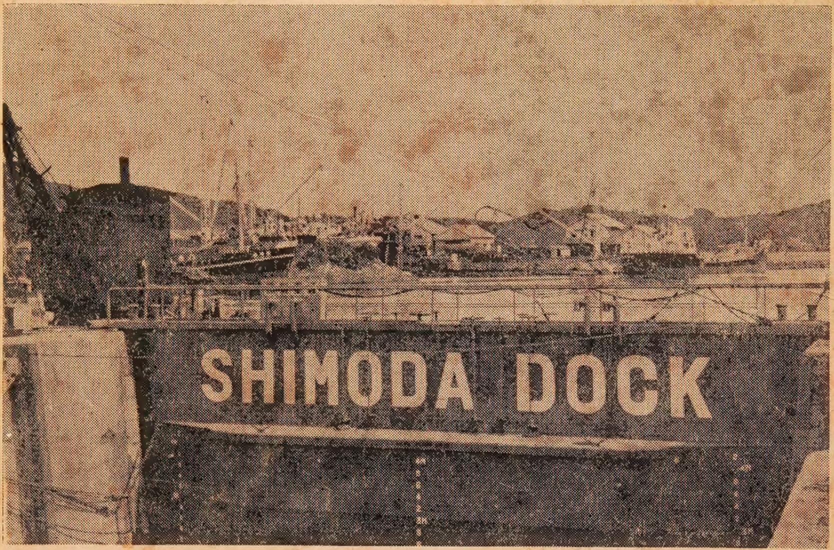
本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話 砧（41）（代）7171—9番
電話 武蔵調布472番
東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町9　電話 芝（43）代表7373—9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25（江商ビル508号室）　電話 北浜（23）4553番
福岡出張所　福岡市天神町55（伊藤ビル）　電話 中（4）2589・8198番

謹賀新年

800屯ドライドック完成

船渠	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅(型)	吃水(平均 汐高線1.7米に於て)	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800 屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500 屯	2
		2条軌条式	50 米	250 屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社工場　電話下田 9・10・53　武ヶ浜工場　電話 下田 77・242番
東京事務所　東京都港区芝田村町 4—13　電話 芝（43）2539・8655番

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業 第四十六号 昭和三十三年一月十日発行（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可